日本語讀本　卷八

日本語讃本　巻八

目　録（もくろく）

第一　明治天皇御製
第二　太陽
第三　人と火
第四　日本の家庭
第五　振子時計
第六　水師營の會見
第七　リンカーンの苦學
第八　良澤と玄白
第九　文字
第十　捕鯨船（ほげいせん）
第十一　瀬戸（せと）内海
第十三　瀬戸（せと）内海の歌
第十三　日本海の海戰
第十四　ゴム
第十五　まかぬ種は生えぬ
第十六　野口英世
第十七　健康第一
第十八　瀧
第十九　最後の授業
第二十　アンシェータ
第二十一　ヨーロッパの旅
第二十二　ブラジル開拓（かいたく）の歌

第一　明治天皇御製

淺みどりすみ渡りたる大空の
　　廣きをおのが心ともがな

四方（よも）の海みなはらからと思ふ世に
　　など波風の立ちさわぐらん

さわがしき風につけても外國（とつくに）に
　　出でて世渡る民をこそ思へ

（004．ｊｐｇ）

大空にそびえて見ゆるたかねにも
　　登れば登る道はありけり

いちはやく進まんよりも怠（おこた）るな
　　學びの道に立てるわらはべ

事しあらば火にも水にも入りなんと
　　思ふがやがてやまとだましひ

母が手に引かれて歩むうなゐ子の
立ちとまりては菫つむなり

白波の寄せて洗ひしあと見えて
眞砂路（まさごぢ）清し夏の夜の月

むち打たば紅葉（もみぢ）の枝にふれぬべし
駒（こま）をかかへんをか越えの道

（新漢字　民　學　歩　清）

（005．ｊｐｇ）

海原（うなばら）はみどりに晴れて濱松の
こずゑさやかに降れる白雪

第二　太陽

地球上に存在するもので、太陽の影響（えいきょう）を受けぬものは一つも無い。　太陽の光と熱とが無くては、我々人間は勿論（もちろん）、あらゆる生物、一とし

て生存

することは出來まい。

これ程我々に重大を關係のある太陽とは、一體どんなものであらう。　一口に言へば、白熱の情態にある一大火球で、これを形づくつて居るものは、液（えき）體に近い気體であらうといふ。

さうして、其のさしわたしは百三十九萬粁（キロメートル）即ち

地球の百九倍餘りに當り、其の容積は地球の百三十萬倍に當つて居る。温度は、表面で約六千度、内部に入るにしたがつて盆高い。光の強さに至つては非常なもので、これを燭（しよく）光でいへば、二三の下に零（れい）を二十六も附けて表はさねばならぬ。

望遠鏡で見ると、太陽の表面は、全部が一様にか

（新漢字　熱　程　係　熊　即＝郎　容　積　盆　遠　鏡）

（006．ｊｐｇ　挿絵あり）

がやいて居るのではなく、光の強い部分もあれば弱い部分も

がやいて居るのではなく、光の強い部分もあれば弱い部分もあり、又所々に黑點といつて黑く見える所もある。此の黑點は、多分表面に生ずるうづ卷てあらうといふ。さうして其の數や大きさは、凡そ十一年餘を週期として增減して居る。

ところが、此の大きな太陽も、夜の空に銀の砂をまいたように見える小さな星の一つと同じものだといふ。つまり此の宇宙には、あの太陽の外に、これと同じようなものが、なほ、數限りも無く存在して居るが、たゞ其の距離の遠いために、あんなに小さく見えるのである。しかも、我々に最も近いあの太陽でさへ、地球からは凡そ一億五千萬粁も離れて居る。今かりに一時間三百粁の速度で飛ぶ飛行機に乘つて行つたとしても、太陽に到着するには五十七年かゝるのである。

あり、又所々に黒點といつて黒
く見える所もある。此の黒點
は、多分表面に
生ずるうづ巻
であらうといふ。　さうして其
の數や大きさは、凡そ十一年餘
を週期として增減して居る。
ところが、此の大きな太陽も、夜の空に銀の砂を
まいたように見える小さな星の一つと同じも
のだといふ。　つまり此の宇宙（うちゆう）には、あの太
陽の
外に、これと同じようなものが、なほ、數限りも無
く存在して居るが、たゞ其の距離（きょり）の遠いために、
あんまに小さく見えるのである。　しかも、我々
に最も近いあの太陽でさへ、地球からは凡そ一
億（おく）五千萬粁（キロメートル）も離れて居る。　今
かりに一時間三
百秤（キロメートル）の速度で飛ぶ飛行機に乗つて行つた
とし

ても、太陽に到着するには五十七年かゝるのである。

（新漢字　週　増　減　星　速　飛　到）

（007．ｊｐｇ）

第三　人と火

「人は火を用ひる動物。」と言はれて居るように、火を使用するのは人類ばかりで、他の動物には見られない所である。

一體人は、最初どうして火を得たであらうか。

思ふに、落雷のために樹木（じゅもく）が燃（も）えたり、密生した

樹木の枝と枝とがすれ合つて起つたりした自（し）然の火から、火種を取つたものであらう。其のうちだんだん人智（ち）が發達するにつれて、木片と木片をこすり合はせて、火を得る法をさとるようになつた。

それから少し進むと、石や金を打合はせて火を出す法を考へるようになつた。　此の方法は各國民の間に、廣く、又極め二て長い間行はれて居たものであるが、マッチの使用が廣まるにつれて、廢（すた）つて來た。　マッチは、今から約百年前に發明されたものである。

火の熱は、初め主として食物を調理するのに用ひたもののようであるが、時代が進んで、燃（ねん）料の種類が増すにつれて、火の用途もだんだん廣くなつて來た。　木炭や石炭や石炭ガスの火は、部（へ）屋（や）を暖めたり物を煮（に）たりするに用ひられ、石炭の火は、木炭の火よりずつと熱度が高いので、汽車や、汽船や、工場の重い機械を動かすのに大切なものとなつて居る。

（新漢字　落　雷　密　種　片　極）

（008．ｊｐｇ）

燈火としては、初め松の木や魚獣の油などをたいたのであつたが、其の後蝋燭（ろうそく）や種油がともされ、石油ランプやガス燈がこれに代り、今は電氣を利用した電燈が使はれるようになつた。　かくして、人は、暗い世界から、だんだん明かるい世界へとみちびかれて來たのである。

「必要は發明の母。」である。　人は生活上の必要から發火法を工夫し、燃料を研究し、熱と光とをあらゆる方面に利用することを考へて來た。しかし、熟や光の作り方や利用の方法は、決してこれで完成したといふわけではあるまい。　將來は、又どんなものが發明されるかも知れない。

第四　日本の家庭

（新漢字　增　炭　暖　魚　獣　油　工　庭）

（009．ｊｐｇ）

小さい兄や姉が、其の弟や妹を背負つて、道ばたで遊んで居るのは、日本ではよく見受ける事であるが、西洋では決して見られない事である。かういふ有様を始めて見た或西洋人が、

「何といふかはいらしい様子であらう。こゝに日本の美しい國風が見える。」

と言つて、感心したといふ事である。

すなほに親の言ひつけを守るのは、日本の子供の美徳である。　兄や姉が、自分よりも小さい弟や妹をかはいがつて世話をするのも、日本の子供の美徳である。　世話にまつた弟や妹が、後に其の兄や姉を大切にするのも、日本の家庭の特色である。

此の西洋人は、まだくはしくは日本の家庭の内部を知らなかつたのであらうが、道ばたの子供を見て、日本の家庭の美徳、「父母ニ孝ニ兄ニ弟ニ友ニ」の一端を認め得たのは確である。

父母の子を愛する情は、東西共に變りは無いが、

日本の家庭では、殊に子供を大切にする。家の貧富・黄賤（きぜん）によつて、生活の上にはそれぞれの差

（新漢字　姉　妹　負　美　徳　兄　弟　友　認　確　西　富　差）

（010．ｊｐｇ）

別があつても、子供を大切にする點に變りは無い。　日本の家庭においては、子供は單に其の父母の寶（たから）といふだけではなく、全く家の寶として大切にされるのである。　だから、子供が生まれれば、どこの家でも、これで先づ我が家のあとつぎが出來たと言つて喜び、其の家が益、繁昌（はんじよう）して行くのを親か、親族も朋友（ほうゆう）も、皆同じ心でこれを祝賀するのである。

さて子供が生まれると、七夜までのうちに名をつける。それから三十日目、處によつては百

日日に、「お宮参り」といつて、其の土地に在る神社へお参りして、無事に成長するよう、又立派（りつぱ）な人に習つて、世の爲、人の爲に働くことが出來るようにとお祈りをする。

三月三日の雛祭（ひなまつり）は女の子の節供（せつく）、五月五日の瑞午は男の子の節供である。　これらの日には、子供のある家々では、美しい雛人形を飾（かざ）つたり、勇ましい鯉（こひ）のぼりを立てたりして、子供を中心に、一家族寄り集つて喜び祝ふ。

日本の家魔には、おとうさんも、おかあさんも、おぢいさんもおばあさんも、一しよに住んで居られる場合が多い。　したがつて、日本の子供は、父母の慈愛（じあい）の外に、祖父や祖母の愛をも受ける。

（新漢字　處　在　爲　形）

（011．ｊｐｇ）

又家の中には、大てい神棚（たな）があつて、神をまつり、佛壇（ぶつだん）があつて、先祖以來の位牌（いはい）をまつつてある。

日本の家は、先祖からの家であつて、たとへ人はなくなり、建物は變つても、此處（ここ）に住む者は、先祖と一しょに住んで居る氣持であり、それを又、だんだんと子孫に傳へて行くのである。

家にそれぞれ其の家の紋（もん）があるのも、日本の家の特色である。

父母は我が家の神我が神と

心盡くしていつけ人の子

と本居宣長（もとをりのりなが）がよんで居るが、父母の方では子供たちを家の寶と思ひ、子供の方では又、父母を家の神とあがめる。　これは日本古来の道で、全く親の親の其の又親の遠い昔から、長く傳へて來た道である。　だかち親しい、なつかしい親愛の情の中に、貴い、ありがたい敬愛の情が湧（わ）いて、父

母に對しては、自然、神に對するようなつゝまし
（新漢字　貴）

（012．ｊｐｇ）

やかな心持にもなるのである。　さうして言語・動作の上にも、それが現れて來る。　他國の家庭では、親子・夫婦・兄弟・姉妹の間の言葉づかひは、總べて對等であるが、先祖と同居して居る日本の家庭では、目上に對する言語と目下に對する言語とに、自ら差別がある。　親に對する子供の言葉が達（ちが）ふはもとより、親代りに世話をし、いたはつて下さる兄姉に對しても、尊敬の心持を含（ふく）む言葉を使ふ。　かうして親は子を思ひ、子は親を思わ、又兄姉は弟妹を憐憐（あはれ）み慈（いつくし）み、弟妹は兄姉を敬
ひ愛し、こゝに美しい日本の家庭が成立つのである。　故國日本を遠く離れて、世界の何處（どこ）に住むとしても、此の美點は、永久に殘して置きたいものである。

第五　振子時計

イタリヤのピサの町にタもやがこめて、日が靜かに落ちて行く頃でした。

ガリレオといふ學生が、此處（こゝ）の有名な大寺院へお参りをしました。　寺院の中は、もう薄暗くな

（新漢字　言　作　姉　妹　總　居　自　敬　振　有　寺　院　薄）

（013．ｊｐｇ　挿絵あり）

つて居ました。　ちようど今、番人が、ランプに火をつけたばかりの所でした。

天井（てんじょう）からつるしてある此の大きなランプが、ふ

と、ガリレオの心をとらへました。

「おや。」

と思ひながら、彼

は其處に立ちど

まつて、じつと見

つて居ました。ちようど今、番人が、ランプに火をつけたばかりの所でした。

天井からつるしてある此の大きなランプが、ふと、ガリレオの心をとらへました。

「おや。」

と思ひながら、彼は其處に立ちどまつて、じつと見つめました。

つるしたランプ

左右　思議　往

は、靜かに左右へ動いて居ます。それは、つい今しがた、番人が火をつけるために手に觸れたからです。ガリレオが不思議に思つたのは、其のランプの動き方でした。左から右へ、右から左へと、往つたり來たりするのに、其の一回々々の時間が、どうやら同じであるように思はれてなりません。

「何かてためして見る方法は無からうか。」

しばらく考へて居たガリレオは、やがて、自分の脈を取つてみました。

つめました。

つるしたランプ

は、静かに左右へ動いて居ます。それは、つい今しがた、番人が火をつけるために手に觸（ふ）れたからです。　ガリレオが不思議に思つたのは、其のランプの動き方でした。　左から右へ、右から左へと、往つたり來たりするのに、其の一回々々の時間が、どうやら同じであるように思はれてなりません。

「何かでためして見る方法は無からうか。」

しばらく考へて居たガリレオは、やがて、自分の脈（みやく）を取つてみました。

（左　右　思　議　住）

（014．ｊｐｇ）

やつぱりさうでした。　ランプが一回動くのに、脈が二つ打つと、次の動きにも、脈は二つ打ちます。　驚いたことには、ランプの動きが次第に小さくなつて、後にはかすかにゆれるだけですが、それでも、一回の動きに、やはり脈は二つ打つといふぐあひでした。

ガリレオは、急いでうちへ歸りました。　さうして、絲におもりを附け、それをつるして、同じようなことを何べんとなくやつてみました。おもりを絲でつるして、それを動かすと、おもりは左右へ振ります。　其の絲を短くすれば振方が速く、長くすれば振方がおそくなります。　しかし、絲の長さを一米（メートル）なら一米（メートル）にきめて置くと、おもり其のものは重くても輕くても、又大きく動かしても小さく動かしても、振る時間は同じです。これを振子の等時性といひます。

十八歳の學生ガリレオは、此の事を發見したのでした。　今から三百六十年ばかり昔の事です。此の發見があつてから、七十年餘り過ぎて、オランダのホイヘンスといふ人が、今までに無い正

（新漢字　短）

（０１５．ｊｐｇ）

確を時計を發明しました。　それは全く、ガリレオの此の發見を應用したものです。　つまり時計の機械に振子を仕組んだもので、これが振子時計の始りです。

自　修　材　料　（二）

○兄弟げんか

昔、或處に、兄弟の農夫がありました。　互に田地（でんち）を爭（あらそ）つて、役所にうつたへ出ました。　長引いた爭のことで、兩方に味方する者が澤山（たくさん）ついて居て、なかなかめんどうな事件（じけん）でした。

泉仲愛（いづみちゅうあい）といふ人が、此の裁判（さいばん）に當ることになりました。が、昔のことですから、特別な裁判所といふものはありません。

仲愛は、兄弟を自分の家へ呼出し、ぞろぞろついて來た兩方の味方の者は、追返してしまひました。さうして兩人

を一

間に入れたまゝ、「ちょつと急な用が出來た。　用事がすむまで待つて居るように。」と申し渡して去りました。

さて、二時間たつても三時間たつても、主人は顔を出しませんでした。　短い冬の日は、早くも暮れようと致します。

やがて、ねんごろな夕食が運ばれました。　どちらからともなく、箸を取りました。　主人は召使に、「まだ用事がすまないけれど、待つて居てくれ、今晩のうちにはさばきをつけるから。」と傳へさせました。

日は全く暮れました。　二人の間に火鉢が運ばれました。

互に物も言はず、にらみ合つて居た兄弟は、時が移るにつれ、たいくつして來るにつれ、さすがに幼かつた頃の事などがしみじみ思ひ出されて來ました。　見ると、兄の頭には白髪（しらが）

（新漢字　確）

（016．ｊｐｇ　挿絵あり）

がふえ、弟の顔にはしわが深くなつて居ます。やがて、

「大そうおそくなるなあ。」

とつぶやくともなく、一人が言へば、

「まあ、火鉢にでも近く寄つたら。」

と一人が言ひ、それから互に火鉢に身を寄せて、昔の事など

語り始めました。　すると、兄弟の間で、こんな事を起したこ

とが恥づかしくなつて來ました。で、「どうだらう、あの田を

二人のものといふことにして、一しょに作ることにしては。」

と兄が言出すと、「にいさんさへ其の氣なら、私に異存（いぞん）はあり

ません。」と弟が答へました。　さうして仲愛の前に此の事を

申し出ますと、

「さうか。　そこに氣がついてくれたか。　めでたい、めでたい。血を分けた兄弟は、さうなくてはならぬ。」

と、いろいろに言聞かせて歸しました。

第六　水師營（すいしえい）の會見

旅順開城約成りて、

敵の將軍ステッセル、

乃木（のき）大將と會見の

所はいづこ、水師營。

庭に一本（もと）なつめの木、

彈丸あともいちじるく、

くづれ殘れる民屋に、

今ぞ相見る二將軍。

乃木大將はおごそかに、

御めぐみ深き大君の

大みごとのり傳ふれば、
彼かしこみて謝しまつる。

昨日の敵は今日の友、
語る言葉も打ちとけて、
我はたゝへつ、彼の防備、
彼はたゝへつ、我が武男。

容（かたち）正して言出でぬ、
（新漢字　彈　丸　謝　彼）

（018．ｊｐｇ）
「此の方面の戰闘（とう）に
二子をうしなひたまひつる
閣下（かつか）の心いかにぞ。」と。
「二人の我が子それぞれに、
死所を得たるを喜べり。
これぞ武門の面目（めんぼく）。」と、

大將、答、力あり。
兩將晝食（ひるげ）共にして、
なほも盡きせぬ物語。
「我に愛する良馬あり、
今日の記念に戯（けん）ずべし。」
「厚意（こうい）謝するに餘りあり。
軍のおきてに従ひて、
他日我が手に受領せば、
長くいたはり養はん。」
「さらば。」と握手（あくしゅ）ねんごろに、
（新漢字　受　領）
別れて行くや右左。
砲（つゝ）音絶えし砲臺に
ひらめき立てり、日の御旗。

第七　リンカーンの苦學

アメリカ合衆國第十六代の大統領リンカーンは、今から百年餘り前、ケンタッキー州の片田舍（ゐなか）の貧しい家に生まれた。

リンカーンが七歳の時、一家はインヂアナ州に移つたが、さしあたり家が無くてはならをいので、父は、自分で木を切出して小さな家を造つた。それは三方が丸太の壁（かべ）で、一方は明け放しになつて居て、戸も窓も床（ゆか）も無いものであつた。家が出來てから、次に土地を開きにかゝつた。　リンカーンは其の頃からもう父の手傳をしなければならなかつた。　父が木を切れば、自分は雑草を刈（かり）取る、父が畠（はたけ）を打てば、自分は種をまくといふ風に、かひがひしく働いて居た。

（新漢字　絶　統　貧　窓　雑　草）

（020．ｊｐｇ）

一家の暮し向はまことにあはれなもので、食物
なども自由には得られず、時には、生のじやがいもしか食
はれまいこともあつた。かういふ有
様であつたから、リンカーンは、十歳頃までは、本
を讀むことなどはほとんど出來なかつた。た
だ通りがかりの旅人から珍しい話を聞いては、
僅かに心をなぐさめて居た。
かうして居るうちに、知識を得たいといふ彼の
欲（よく）望は益強くなり、父に對して是（ぜ）非（ひ）
學校に入れ
てもらひたいと願つたけれども、父は學校へ行
つて時間をつぶすよりも、畠に出て働いた方が
よいと言つて、なかなか許してくれなかつた。
ところが、母のとりなしで、終に學校に入ること
が出來たので、リンカーンの喜は一通りでなか
つた。　學校は四哩（マイル）餘り離れて居たが、道の遠
い

のは少しも厭（いと）はず、毎日々々元氣よく通學した。
鉛筆（えんぴつ）や紙も自由には買へなかつたから、家で算
術の練習をするには、木のシャベルと炭を用ひた。シャベルが數字で眞黑になると、それをふいては、又書く。　大事なことは拾ひ集めた木片（新漢字　僅　識　算　術　練　炭）

（021．ｊｐｇ　挿絵あり）

などに書留めて、忘れないようにして置く。かういふ心掛であつたから、成績（せいせき）は何時（いつ）も優等（ゆうとう）であつた。

しかし、せつかく始めた學校通ひも、家事の爲に僅か一年足らずで止めねばならなくなつた。　それからは又父の手助をしたり、人にやとはれたりすることになつたが、

本を讀みたいといふ心は少しも變らなかつた。
ところが、家に書物が無いばかりでなく、近くに図書館も無いので、どうしても人から借りて讀む外はなかつた。　熱心なリンカーンは、書物を持つて居る人の所には、遠近を間はず借りに行つた。　さうして、其の本の内容がすつかりわかつてしまふまでは、何度でも讃む。　かうして、イソップ物語や、ロビンソン、クルーソーや、合衆國史等を讀んだ。
或時近邊の人からワシントン傳を借りたことがある。　リンカーンはかねがね此の偉人を非
（新漢字　留　掛　書　圖　借）
（０２２．ｊｐｇ）
常にしたつて居たので、鬼の首でも取つた氣になつて、一心に讀續けた。　晝の仕事のあひ間に讀むのは勿論（もちろん）、夜は床（とこ）に就いてから燈が盡きる

まで讃む。　燈が盡きると、翌朝すぐに取れるように、まくらもとの壁際に置く。　ところが、或夜、夜中に激（はげ）しい雨が降つたことがある。　リンカーンがふと目を覺（さま）した時は、もうおそかつた。壁のすき間をもつた雨のために、本がすつかりぬれて居たので、子供心にも大變心配して、其の晩はとうとう眠れなかつた。　翌朝、貸してくれた人の家へ行つて事情を述べ、

「辨償（べんしょう）することが出來ませんから、其の代りに

何か仕事をさせて下さい。」

と願つた。　其の人は別にとがめもせず、願に任せて三日間畠の草を取らせ、さうして本は其のまゝリンカーンに與へた。　リンカーンは其の本をていねいにかわかして其の後何度も何度も讀返して居るうちに、此の偉人の品性に深く感化された。

リンカーンは、父の手助をして忠實に働くと共

（新漢字　就　燈　翌　貸　述　任）

（023．ｊｐｇ　挿絵あり）

に、非常な熱心と努力とを以て
勉強を續けた。　彼が、他日大統
領となり、世界の偉人として萬
人に仰がれるようになつたの
は、實に此の少年時代の苦心の賜（たまもの）である。

第八　良澤（りようたく）と玄白（げんぱく）

今から二百年ばかり前、江戸（えど）に前野良澤といふ
醫者があつた。　或時、知人がオランダの書物の
断片を持つて來て、
「これは、一體、讀めるものでせうか。」
と尋ねた。　良澤は
「やはり人間の用ひて居る
文字ですから、研究したら、

讀めないことはあります
まい。」
と答へた。　良澤がオランダ語の研究を思ひ立つたのは、此の時からだといはれて居る。
其の頃同じ江戸に住んで居た杉田（すぎた）玄白といふ醫者も、オランダ語の研究に志して、オランダの
（新漢字　萬　醫　断　文字　志）
（024．ｊｐｇ　挿絵あり）

使が江戸に來る度毎に、其の宿を訪ねて、教を受けて居た。　良澤もよく其處（そこ）に來るので、二人は懇意（こんい）な間がらとなつた。
玄白は、或時オランダの解剖書（かいぼうしょ）を手に入れた。　文章（ぶんしよう）は讀めないながら、挿繪（さしえ）を見ると、從來の説とは、内臓（ないぞう）の形や位置が非常に違（ちが）つて居る事がわかる。　玄白は、或人が「死體を解

剖してみると、従來の醫書はとても信じられない。」と言つた事を思ひ合はせて、是非（ぜひ）確めてみたいと思つた。

其の頃、千住（せんぢゆ）の小塚原（こづかはら）では、死刑（けい）になつた者の體を解剖する事があつた。　其の日の來るのを待構え（かま）へて居た玄白は、いよいよ解剖があると聞いて、非常に喜び、良澤其の他の同志をさそつて、一しよに見に行くことにした。

一同は小塚原へ行つて、解剖の始るのを待つて居た。すると、良澤はふところから一冊（さつ）のオランダの書物を取出して、

（新漢字　説　位　志）

（０２５．ｊｐｇ）

「これは解剖の書物です。　先年長崎（ながさき）へ行つた

時買つたのです。」

と言つた。　玄白も例の解剖書を取出した。此

べてみると、同じ物である。　オランダの書物を手に入れる事はなかなか困難であつた當時の事であるから、「これは不思議だ。」と互に手をうつて感歎（たん）した。　良澤は書中の解剖圖をさして、これは肺（はい）、これは心臓、これは胃（い）などと、いろいろ説明したが、餘り目新しいので、一同は半信半疑（ぎ）で聞いて居た。

いよいよ解剖が始つた。　體内の諸器官を一々圖に引合はせて點檢すると、胃も心臓も肺も、形といひ位置といひ、全く圖の通りである。　熟心に引合はせて見れば見る程、西洋人の精密な研究に驚かされる。　一同は、感歎の餘り、聲も出なくなつた。

玄白は、良澤と連立つて歸途に就いた。

玄「いやしくも醫を以て立つ者が、大事な内臓の面目（めんぼく）無　在り場所も知らないで居たのは、誠　（まこと）に

い次第です。　私は恐しくて、もう治療（ちりょう）をする

（新漢字　検）

（026．ｊｐｇ）

勇気が無くなりました。」

良「全くさうです。　どうかして體の組織を一通り研究して、醫者としての自信を得たいものですね。」

玄「どうでせう、此の解剖書を飜譯（ほんやく）したら。我が國の醫術の上に、大變利益があると思ひますが。」

良「實は私も、年來其の望を持つて居ますが、同志が無いので、まだ着手せずに居ます。」

玄「それでは、明日から一しよに始めようではありませんか。」

二人はかう相談をきめて別れた。　此の時良澤は四十九歳、玄白は三十九歳であつた。

翌日から、いよいよ解剖書の飜譯を始めた。　ところが、たよるべき良い辞書（じしよ）は無いし、語學の知識は極めて淺いから、ほとんど手のつけようがなかつた。　僅か一字の意味を考へる爲に、一日を費す事もある。　一行を譯すのに、三日も四日もかゝる。　それでも少しもたゆまず、毎月六七回會合して仕事に励（はげ）んだ。　さうして居るうち

（新漢字　組　織　談　良い　行）

（027．ｊｐｇ）

に、理解も次第によくなり、おもしろさも加つて、一年程後には、一日に十行ぐらゐは樂に譯せるようになつた。　仕事のあひ間には、解剖を見に行くこともある。　又オランダの使が江戸に來ると、不審（ふしん）を聞きに行くといふ風に、總べて研究

の爲には勞力を惜（お）しまなかつた。

全部の飜譯を終へるのに、四年の歳月を費した。

其の間に草稿（そうこう）を書直すこと十二度。　かうして
出來上つたのが「解體新書」で、これは西洋醫書の
日本で飜譯された初である。

第九　文字

我々が前の時代の事を知り、今の時代の情態を
悟（さと）り、又廣く思想を社會に通じ、更にこれを後の
世に傳へることの出來るのは、一に文字の賜（たまもの）
である。　文明が時代を追うて次第に進歩するの
は、其の大半は、これを文字の功に歸しなければ
ならぬ。
文字とは、思想を書き記す符號（ふごう）であつて、しか
も
多數の人の間に認められ、共通に用ひられるも
（新漢字　終　想　共）
のである。　太古人は縄（なは）を結んで約束のしるし
としたことがある。　今でも野蠻人（やばんじん）の中に
は、木

の枝を切つて種々の長さとし、通信・備忘の用に供する者がある。　しかし、これらはまだ文字と稱（しょう）することは出來まい。　文字として認むべきもので、最も早く發明せられたのは、漢（かん）字・エジプト文字等である。　漢字やエジプト文字は、其の後大いに發達・變化して、現今世界の主なる國に行はれる文字となつた。

漢字には、日・月・山・水・魚・鳥・木のように物の形にかたどつて作つたものもあり、木の上に一畫を加へて末下に一畫を加へて本の意味を表はしたようなものもある。　木を二つ合はせて林、三つ合はせて森とするが如き、又日と月を合はせて明とするが如きは、數字を合はせて一つの意味の文字を成すのである。　各に宇冠（うかんむり）又

は木扁（きへん）を添（そ）へて、客（かく）・格（かく）とし、官

（新漢字　結　忘供　主）

（029．じょｐｇ　挿絵あり）

に竹冠又は食扁を添へて管（かん）・館とする如きは、各特殊の意義を示すけれども、其の音は元の各・官によつて示されて居る。　漢字の構造（こうぞう）は種々である。

日本は古く支那（しな）の漢字を輸入し、これを用ひて物事を記して居たが、

後、　假名（かな）文字を製作して、漢字と併（あは）せ用ひるようになつた。　片假名は漢字の一部分を割（さ）いて作つたものであり、平假名は漢字の草體から發達したものである。

漢字は、もと、物の形にかたどつて作つたもので

阿	加	散	多	奈
ア	カ	サ	タ	ナ

安	加	左	太	奈
あ	か	さ	た	な

あるが、其の後、時代と共にいろいろに發達・變化して、今では其の由來のわからないものが多く、字數も五萬を超えて居る。　エジプト文字も漢字と同じく、物にかたどつて作つたものであるが、其の後著しい發達を遂げなかつたため、終に繪畫の城（いき）を脱（だつ）するに至らなかつた。　しかし、其の影響（えいきよう）は甚だ大なるものがあつて、今日ヨーロ

（新漢字　各　殊　元　輸　入　平　由　著　遂　其　甚）

（030．ｊｐｇ）

ッパ及びアメリカ諸國で用ひるローマ字も、此のエジプト文字から變化したものである。

漢字やエジプト文字は、物の形にかたどつた文字であるから、象形文字といひ、又一字がそれぞれ意義を有するから意字ともいふ。　假名文字及びローマ字の如きは、もと象形文字から發達

したものではあるが、音のみを表はす文字であるから、表音文字又は音字といふ。　音字はそれ自身には意味は無いが、これによつて言語を書表はすことが出來る。

自修材料（二）

○かんにん

或人が、文字を知らない人に向かつて、一世の交（まじはり）は、他の事はいらず、たゞ堪忍（かんにん）の二字を守るのが第一ぢや。」と教へた。　其の人は頭をかたむけ、「はて、かんにんとは、四字ではございませんか。」と、指で數へてみて、「やつぱり四字のようですがね。」と言つた。　意見した人が、「ばかな人だな。　堪忍は堪（た）へ忍ぶとよんで、二字だよ。」と言ふ。　すると、其の人は又頭をかたむけ、「たへしのぶならば又一字ふえました。　五字ではありません

か。」と問うた。　彼の人はおこり出して、「さてさて文字を知らぬ者は仕方のないものぢや。　四字でも五字でも勝手にするがいゝ。」とのゝしつた。　其の人は平氣な顔で、「はいはい、何と惡口されましても、私はかんにんの四字を心得て居ますから、腹（はら）は立てません。」と笑つて居た。

（新漢字　象　身）

自修材料（二）

○かんにん

或人が、文字を知らない人に向かつて、世の、交は、惡の事はいらず、だゞ堪忍の二字を守るのが第一ぢや、と教へた。　其の人は頭をかたむけ、はて、かんにんとは、四字ではございませんか、と、指で數へてみて、やつぱり四字のようですが、ぬ、と言つた。　意見した人が、ばかな人だな。　堪忍は堪へ忍ぶとよんで、二字だよ、と言ふ。　すると、其の人は又頭をかたむけ、だへしのぶならば又一字ふえました。　五字ではありませんか、と問うた。　彼の人はおこり出して、さて〳〵文字を知らぬ者は仕方のないものぢや。　四字でも五字でも勝手にするがいゝ、とのゝしつた。　其の人は平氣な顔で、はい〳〵、何と惡口されましても、私はかんにんの四字を心得て居ますから、腹は立てません、と笑つて居た。

第十　捕鯨船（ほげいせん）

昨日の風雨は名残（なごり）なくをさまつたが、海面にはまだ波のうねりが高い。　一そうの捕鯨船が、勇ましく波を切つて進んで行く。　マストの上の見張人が、不意に、

「鯨、（くぢら）鯨。」

と聾高く叫んで、北の方を指さした。

甲板（かんばん）に立つて居た船長を始ま、十人ばかりの乗組員は、ひとしく目を其の方向に向けた。はるかの彼方（かなた）に、白い水煙が見える。

砲手の落着いた、力のこもつた號令に、船は早や方向を轉じた。　砲手は、此の時早く、船首の砲後に立つて、其の引金に手をかけた。　右に左に鯨を追ひつゝ、四五十米（メートル）まで近づいた時、ねらひを定めて、ずどんと一發、破裂（はれつ）矢を仕掛け

たもりを打つ。　もうもうと立ちこめる白煙の間から見ると、すさまじい波を起して、

（新漢字　雨）

（033．ｊｐｇ　挿絵あり）

鯨は海底深く沈んだ。

「命中、々々。」

一同は歡呼（かんこ）の聲を上げた。

もりが體内深くくひ込（こ）んで、破裂矢が見事に破裂したのであらう、もりに着けた長綱（つな）はぐんぐん引張られて、三百米（メートル）ばかりも繰（くり）出された。

やがて、鯨は、再びはるか彼方に浮上つた。今まで勢よく引出されて居た綱も、やゝゆるんで來た。　綱を次第々々に繰戻（もど）すと、鯨は刻（こく）一刻船に近寄つて來る。　しかし、まだなかなか勢が強いので綱を巻いては延ばし、延ばしては巻いて、氣

長くあしらつて居るう
ちに、さすがの鯨も次第
に弱つて、船から五十米（メートル）
ぐらゐの處まで引寄せ
られた。　其の時、二番も
りが打出された。　二十
米も（メートル）ある大鯨が、今ほ全
く息絶えて、小山のよう
な體を水面に横たへる。
（新漢字　底　延）

（034．ｊｐｇ）
あたりには、流れ出る血に、紅（くれなゐ）の波がたゞよ
ふ。
「萬歳、々々。」
船員は、手早く、鯨の尾を、くさりで船ばたにつな
いで、威勢よく根據地（こんきよち）に引上げる。

第十一　瀬戸（せと）内海

本土の西、近く九州と相接せんとする處下關海（しものせきかい）

峡（きよう）あり。　四國の西には佐田岬（さたみさき）長く突出で、元州にせまりて、豊（ほう）豫（よ）海峡を成す。　淡路（あはぢ）島の東端本土と相望む處、紀淡（きたん）海峡となり、四國に近き處、鳴門（なると）海峡となる。　此の四海峡に包まれたる細長き内海を瀬戸内海といふ。」

瀬戸内海には到る處に岬あり、灣（わん）あり、大小無數の島々各所に散在す。　船の其の間を行く時、島かと見れば岬なり。　岬かと見れば島なり。　一島未（いま）だ去らざるに、一島更に現れ、水路きは

（威　到　島）

（035．ｊｐｇ　挿絵あり）

まるが如くにして、又忽（たちま）ち開く。　かくして島轉じ、海廻りて、其の盡くる所を知らず。

春は島山かすみに包まれて眠るが如く、夏は山海皆緑にして、目ざむるばかりあざやかなり。　兩岸及び島々、見渡す限り田園よく開けて、毛氈（もうせん）を敷（し）けるが如く、白壁（はくへき）の民家其の間に點在す。

海の靜かなることは鏡の如く、朝日・夕日を負うて、島がくれ行く白帆の影（かげ）ものどかなり。　月影のさゞなみにくだけ、漁（ぎょか）の波間に出没（ぼつ）する夜景も、また一段（だん）の趣（おもむき）あり。

瀬戸内海の沿岸（えんがん）には、大阪（おおさか）・神戸（かうべ）・尾の道・宇品（うじな）・高松・多度津（たどつ）・高濱等良港多く、汽船絶えず通航して、

遠く近く黒煙の青空にたなびくを見る。

内海の沿岸及び島々には名勝の地少からず。

嚴島（いつくしま）は、古より日本三景の一に數へられて殊に

名高く、屋島・壇（だん）の浦（うら）は、源平（げんぺい）の音語に、人の感興を

（新漢字　廻　田　勝　古　興）

（036．ｊｐｇ）

動かすこと甚だ切なり。　日本に遊べる西洋人は、此の瀬戸内海の風景を賞して、世界における海上の一大公園なりといへり。

第十二　　瀬戸（せと）内海の歌

のどけき春の朝ぼらけ、
デッキに立ちて眺（なが）むれば、
朝日きらめく波の上、
おぼろに、かすむ島山の

影（かげ）おもむろに移り行く。
前より來る自帆影、
忽（たちま）ち後に消え去りて、
遠くかすかに見えたりし
島影やがて近づけば、
又現るゝ島幾つ。

靜けき波に影うつす、
緑にまじる花櫻、
にほふ山邊もいつしかに、
眺は變るおもしろさ、

（新漢字　賞）

（037．ｊｐｇ）

瀬戸内海の船の旅。

第十三　日本海の海戰

露（ろ）國が連敗の勢を回復せん爲、本國における海軍のほとんど全勢力を擧げて編（へん）成せる太平洋第二・第三艦（かん）隊は、朝鮮海峽（ちようせんかいきよう）を經てウラヂポストックに向かはんとす。　我が海軍は、初より敵を近海に迎へ撃つの計を定め全力を朝鮮海峽に集中してこれを待つ。　明治三十八年五月二十七日午前四時四十五分、我が哨（しよう）艦信濃（しなの）丸より、無線電信にて「敵艦見ゆ。」との報告あり。　東郷（とうごう）司令（しれい）長官は直ちに全軍に出動を命じ、先づ小巡（じゆん）洋艦をして敵艦隊を沖の島附近にいざなひ寄せしむ。

午後一時五十五分、我が旗艦三笠（みかさ）は、戰闘（とう）旗をかかぐると共に、信號旗を以て令を各艦に下せり。いはく、

「皇國の興廢、此の一戰に存り。　各員一層奮勵（ふんれい）
努力せよ。」
と。　我が軍の士氣大いに振るふ。
（新漢字　擧　經　擊　豫　報　告　直　廢）

（038．ｊｐｇ　挿絵あり）
三笠に坐（ざ）乘せる東郷司
令長官は、六隻（せき）の主戰艦
隊を率（ひき）ゐて、上村艦隊と
共に先頭なる敵の主力
に當り、片岡（かたをか）・出羽（では）・瓜生（うりふ）・東
郷（正路）の諸隊は敵の後
尾をつく。
敵の先頭部隊は直ちに
砲火を開始せしが、我はこれに應ぜず、距離（きより）六
千
米（メートル）に近づき始めて應戰し、烈（はげ）しく敵
を砲擊せ

しかば、敵の艦列忽（たちま）ち亂（みだ）れ、早くも戰列を・離るゝものあり。

風叫び海怒（いか）りて、波は山の如くなれども、沈着にして熟（じゆく）練なる我が砲員の打出す砲彈は、よく敵艦に命中して、續々火災（さい）を起し、炎煙（えんえん）海をおほふ。

午後二時四十五分の頃ほひ、勝敗の數は既（すで）に定まれり。　敵はかまはじと、にはかに路を變へて逃れ去らんとす。　我は急に其の前路をさへぎりて攻撃せしかば、敵の諸艦皆多大の損害を受け、續いて、我が驅逐（くちく）隊より二回の水雷攻撃を受

（新漢字　始　撃　沈　續　路　逃　攻）

（039．ｊｐｇ）

けて、敵の兩旗艦は遂に沈没（ぼつ）し、其の他の諸艦も相次いで沈没せり。　夜に入りて、我が驅逐隊・水雷艇（てい）隊は砲火をくゞつて敵艦にせまり、無二無

三に攻撃せしかば、敵艦隊は四分五裂（れつ）の有様となれり。

明くれば二十八日、天よく晴れて、海上波靜かなり。　我が艦隊は、東郷司令長官の命により、鬱陵（うつりよう）島（とう）附近に集りて敵を待ちしが、忽ち東方に當りて、はるかに數篠の黑煙を見る。　よりて、主戰艦隊及び巡洋艦隊は、直ちに東方に向かつて敵の進路をふさぎ、片岡・瓜生・東郷の諸隊は其の退路を絶ちて、午前十時十五分、全く敵を包圍せり。

敵將ネボカトフ少將今は逃れぬところと覺悟（かくご）したりけん、にはかに戰艦ニコライ一世以下の四隻を擧げて、其の部下と共に降服せり。

敵の司令長官ロジェストウェンスキー中將は、昨日の戰闘に傷を負ひ、幕僚（ばくりよう）と共に一驅逐艦に移

りしが、我が漣（さざなみ）・陽炎（かげろふ）二隻の驅逐艦に追擊せられ、

遂に捕（と）らへらるゝに至れり。

此の兩日の戰に、敵艦の大部分は我が艦隊のた
（新漢字　篠　絶　包　圍　傷　追）
（０４０．ｊｐｇ）
めに、或は撃沈せられ、或は捕獲（ほかく）せられて、三十八
隻の中、逃れ得たるもの巡洋艦以下數隻のみ。
敵の死傷及び捕虜（りょ）は、司令長官以下一萬六百餘人。　我が軍の死傷甚だ少く、沈没したるもの僅
かに水雷艇三隻に止れり。
東郷司令長官の發せし戰況（きょう）報告の末にいはく、
「我ガ聯（レン）合艦隊ガ、ヨク勝ヲ制シテ前記ノ如キ
奇蹟ヲ収メ得タルモノハ、一ニ天皇陛下ノ御
稜威（イツ）ノ致ス所ニシテ、固（モト）ヨリ人爲ノヨクスベ
キニアラズ。　特ニ我ガ軍ノ損失・死傷ノ僅少
ナリシハ歴代神靈（レイ）ノ加護（カゴ）ニ由ルモノト信仰
スルノ外ナク、サキニ敵ニ對シ勇進敢（カン）戰シタ

ル麾下（キカ）将卒（ソツ）モ皆此ノ成果ヲ見ルニ及ンデ、唯（タマ）

感激（ゲキ）ノ極言フ所ヲ知ラザルモノノ如シ。」

と。　勝報上聞に達するや、司令長官に賜（たま）へる勅（ちょく）

語の中に、

「朕（チン）ハ汝等ノ忠烈（レツ）ニ依（ヨ）リ、祖宗（ソウ）ノ神靈ニ對フル

ヲ得ルヲ懌（ヨロコ）ブ。」

と仰せられたり。　将卒これを聞きて、感泣（きゆう）

るはなかりき。

（新漢字　傷　止　収　僅　極）

（04．ｊｐｇ　挿絵あり）

第十四　ゴ　ム

自動車・自轉車のタイヤ、ゴムまり・ゴム人形・消し

ゴム・ゴム靴（ぐつ）・ゴム管（かん）・ゴム風船など、數

へてみると

ゴムで造つたものは實に多い。　一體ゴムは何

からどうして造るのであらうか。

ゴムは、熱帯地方に産する或植物から探る白色の液（えき）を原料として、製造したものである。　此の液の取れる木を、普通にゴムの木といつて居る。これには種類が多く、一番良いのは、パラゴムといふのである。　今日世界におけるゴムの大部分は、此の木から取つたものである。此の種のゴムが、昔、主としてブラジルのパラー州から産出したので、パラゴムの名が生じたわけである。ブラジル達でゴムを製造するには、山野に自生するゴムの木から原料を探るのであるが、近年ゴムの需（じゅ）要が激（げき）増したために、英國人は、マレイ半島の領地にパラゴムの木を移植するに至つた。　他の

（新漢字　探　普　英）

（042．ｊｐｇ　挿絵あり）

國人もこれにならつて、南洋におけるゴムの栽培はすこぶる盛んになつた。　南洋は一年中温度が高く、雨量が多いので、ゴムの木の發育（いく）には最もよく適して居る。　マレイ半島・蘭（らん）領印度（いんど）等には、日本人の經營して居るゴム園も澤山（たくさん）にある。

此の邊でゴムを栽培するには、先づ森林を焼拂（はら）つて、其の跡（あと）に種をまくか、又は苗（なへ）木を植付けるのであるが、これが成長して、切付を行ふまでには五六年もかゝる。　其の間、草を取つたり、虎（とら）や象の荒しに來るのを防いだり、苦心はなかなか一通りでない。

切付といふのは、ゴムの木から液を探る爲に、木の幹（みき）に小刀で傷をつけることをいふのである。切付には餘程熟練を要する。　元來ゴム液は、幹

の皮部と木質部
との間にある乳（にゅう）
管（かん）組織といふ所
から出るのであ
るから、此の組織
（新漢字　栽　培　營　森　林　付　皮）

（043．ｊｐｇ）

の所まで小刀がとゞいて、しかもそれより深く
は傷のつかないようにしまければならぬ。　此
の傷から出て來るゴム液は、流れて下のコップ
にたまるのである。
ゴム園の人は、毎朝暗いうちに起きて、受持の木
に此の切付をして廻る。　それがすむと、今度は
バケツを持ってコップにたまつた液を集めて
歩くのである。　集めた液は、これを工場に持つ
て行き、先づ、こして不純（じゅん）な物を取除き、次に、
藥品

を入れて固らせ、機械で薄くのして、かわかすのである。

こゝまでが原産地における仕事である。かうして出來たゴムは、各國の工場に運んで加硫（かりゆう）法を行ふ。　加硫法とは、ゴムに硫黄（ゆおう）をまぜることで、かうすると、ゴムが非常に彈力を增して來る。これをそれぞれ用途に應じて、更に加工するのである。

電氣の機械ヤ、萬年筆の軸（ぢく）などに用ひるエボナイトといふものも、ゴムから造る。　近來床（ゆか）の敷（しき）物や、道路にもゴムを用ひることが行はれて來

（新漢字　除　藥　固　加　筆）

（044．ｊｐｇ）

た。　ゴムの用途は、年を逐（お）うて益廣くなるばかりである。

自　修　材　料　（三）

○　木村重成（きむらしげなり）の妻

木村重成は、長らく立てこもつた大阪（おおさか）城も、もはや落城とき

まつたので、明日は戰死と覺悟をきめ、死んでも見苦しくな

いように、前夜、體を清め、頭には香（こう）をたきこめた。

翌朝妻に向かひ、

「今日を限りの門出（かどで）である。　呼返す用事の無いように、言

ふべき事は、今申せ。　重戌が家から火を出して城を燒い

ては、後世までの恥（はぢ）であるから、火の元を注意せよ。」

と申しつけた。　妻は、

「はい。」

と答へて、平常の如く、むつまじく食事を共にした。さうし

て、

「お心殘りの無いように、御一しよに火の元を見てい

たゞ

きます。」

と、共に火の有る所を消して廻つた。　さていよいよ出陣と

いふので、見送つて出た門口で、妻が重成を呼びとめた。　重

成は、

「今申した事をもう忘れたか。　いくさの門出に、後を振返

らせる法があるか。」

と叱りつけた。　妻は、

「いえいえ、これを見とゞけてから、あつぱれ勇ましく働い

て下さい。」

と言ひさま、ふところ刀を以て我が胸を突いた。　重成は其

の最期（さいご）を見て、心地よげに馬を戰場に走らせた。

第十五　まかぬ種は生えぬ

「まかぬ種は生えぬ。」といふことわざは、誰でも知つて居ることであるが、生物界の現象中には、ともすると、まかぬ種が生えるような考を起させることがある。　それで、今でも世間には、往々、蚤（のみ）が湧（わ）くとか、しらみが湧くとか言つて居る人がある。　もつとも、かういふ考は、日本ばかりでなく、何處（どこ）の國にもあつたのであるが二三百年以前から、追ひ追ひ實物に就いて物を研究する風が起り、又顕微鏡（けんびきよう）を用ひて細かい物を調べることが出來るようになつた結果、だんだん其の誤（あやまり）であることがわかつて來た。　例へば、昔はうじといふものは、肉をどが腐（くさ）ると自然に其處（そこ）に湧くものであると信じて居た。　ところが、イタリヤのレヂといふ學者が、細かい金網（かなあみ）で肉をおほ

つて蠅（はへ）が附かないようにして置いたところが、幾日過ぎても、どんに肉が腐つても、うじが一匹も生じなかつた。　そこで、うじは決して腐つた肉から湧くものではなく、全く蠅が來て産み

（新漢字　細　産）

（046．ｊｐｇ）

つけた卵がかへつたのであるといふことが確になつた。　かうして實物に就いてだんだん研究してみると、元は自然に湧くと思はれて居た蛔蟲（かいちゆう）やさなだ蟲も、種無しに生ずるものではないといふ事がわかつて來た。

又山間に新しく掘（ほ）つた池などに、鰻（うなぎ）が居たり、じみが居たりすることがある。　ちよつと考へると、鰻やしゞみがかういふ池に居るようになるのは、全く其の場所に湧いたとしか思はれない。　しかし、よく調べてみると、やはり湧いたの

ではなく、外から來たのである。　鰻は元来、海中でかへるもので、初は透（とう）明な白魚のようなものであるが、だんだん體がしまり、色も次第に黑くなつて、いはゆる針鰻になる。　此の針鰻は幾千も幾萬も群を成して川をさかのぼり、次第に細い溝（みぞ）などへ進み、雨でも降れば、路上や草の間の水たまりを傳はつて、何處までも進んで行く性質を持つて居る。　であるから、鰻は山間の新しい池にでも達することが出來るのである。叉

しゞみのような貝類は、其の二枚（まい）の殼（から）で、がん・か

（047．ｊｐｇ）

もなどの羽毛や足に附着することがあるから、餘程へだたつた處までも運ばれて、其處で繁殖（はんしよく）することは、決して珍しいことではない。

生物學上「まかぬ種は生えぬ」といふことがわかつたおかげで、人間の生活の上に大きな利益が

もたらされた。　近來發達した消毒法や、食物を罐詰（かんづめ）にして長く保存（ほぞん）する方法なども、全く此の理を實地に應用したものである。　若し病氣や腐（ふ）敗のもととまる微細（びさい）な生物が、種が無くても自然に湧くものであつたら、かういふ方法は、何の役にも立たないはずである。

第十六　野口英世（のぐちひでよ）

醫學界の偉（い）人として全世界に其の名を知られた野口英世、彼の名は永久に人類の恩人として世に傳はるであらうが、此の偉人も、決して初から萬人にすぐれて居たのではない。　彼がかくなるに就いては、全く涙ぐましい、いろいろの奮（ふん）闘（とう）美談がある。

彼は明治九年、福島縣の片田舎（ゐなか）、猪苗代（るなはしろ）湖畔の翁（おきな）

（新漢字　羽　毛　消）

（048．ｊｐｇ　挿絵あり）

島（じま）村に生まれた。　家は極めて貧しく、やうやく其の日の生活をさゝへて行く程度であつたが、しかも此の貧しい暮しの中に、又思ひもかけない不幸が起つた。　それは當年やつと三歳になつたばかりの英世が、圍爐裏（いろり）にころがり落ちて、左手に大やけどをした事である。　母の夜の目も眠らぬ看護（かんご）のかひがあつて、傷はやうやくなほつたが、五指が皆癒（ゆ）着し、其の上、手と腕（うで）とが一部分癒着して全く其の自由を失ひ、生まれもつかないかたはとなつた。

五六歳の頃、近所の子供たちと一しよに遊び、勝負をして英世が勝つと、負けた子供たちは、くやしまざれに、「てんぼうやあい。」と英世の不具をあざけることもあつた。　かう言はれる

と、英世の心も何とな
く暗くなつて、じつと
自分の手を見つめて
は、「あゝ、笑はれても仕
方がないなあ。」と、我が身の不幸をかこちながら、
すごすごと家に歸るのが常であつた。
やがて英世は、村の小學校へ通學するようにな
つたが、人から不具の手を笑はれるのを無念に
思ひ、又母の苦勞を察して、幼心にも、「よし、笑はば
笑へ。　手は不自由でも、勉強してえらい人にな
らう。さうして母にも安心させよう。」かう考へ
た。　さうして一生懸（けん）命で勉強したので、學業は
日に日に進んだ。　しかし、夜、本が讀みたくても、
家が貧しいために、燈をともすことが出來ない。
そこで隣のはたご屋に頼んで、風呂（ふろ）たきを手傳

（新漢字　程　幸　指　失　負　具）

（049．ｊｐｇ）

ひながら、本を讀ませてもらつたといふ。

かうして奮勵（ふんれい）した結果、抜群の好成績（せき）で尋常小

學校を卒（そつ）業した。　其の頃の尋常小學校は四箇（か）

年の課（か）程であつたが、これを卒業すると、幸ひ、篤（とく）

志家（しか）があつて、學費を出してくれたので、更に進

んで高等小學校へはいつた。

彼は一心不亂（らん）に勉強したので、成績はずんずん

進んで行つた。　これを見た人々は、其の不具の

手を何とかしてなほしてやりたいものと思ひ、

（新漢字　察　頼　抜　幸　資）

（050.3.jpg）

治療（ちりよう）費を出し合つて、或醫師の手術を受けさせ

た。其の結果は極めて良く、癒着して居た手と

腕は切離され、五指もそれぞれ切離されて、どう

にか自由に動くだけは動くようになつた。　醫

師が、最後に繃帯を取りのけて、始めて普通の人

間の子らしくなつたのをはつきりと見せてくれた時には、英世は全く夢（ゆめ）かとばかり驚き、狂喜（きようき）したといふことである。

手術の成功によつて、前途に光明を望み、狂喜した英世は、深く醫術の恩恵（けい）を感ずると共に、將來醫學を修めたいといふ志望を起した。　そこで、世話になつた人々とも相談して、高等小學校を卒業すると、さきに手術を受けた醫師に頼んで、其所（そこ）の書生として入門させてもらふこととなつた。

かうしていよいよ自分の志を達するのに都合のよい境遇（きようぐう）になると、彼の勉強は、更に一段（だん）の烈（はげ）しさを加へ、主人の手傳をする傍（かたはら）、中學校の主な學科は、僅か一箇年ばかりの間に獨修した。　外国語の學習には特に力を用ひ、ドイツ語・英語・フ

（新漢字　師　明　修　都　科）

（051．ｊｐｇ）

ランス語を修め、其の進歩は又甚だ著しいものがあつた。　やがて醫學に関する洋書を讀み得るばかりでなく、これを國語に飜譯・出版して人人を驚かした程であつた。

彼は、明治二十九年、二十一歳の時、醫術開業試驗を受ける爲に東京に出たが、それからは更に一層よく働き、一層よく學んで、翌年試驗に合格して醫師の資格を得た。

醫師となつた英世は、しばらく實地研究を重ねて種々の業績をあげたが、これに甘（あま）んじて居る彼ではなかつた。　明治三十三年には、更に志を立ててアメリカ含衆國へ留學の途に上つた。

もとより學資とてはほとんど無く、渡米後における辛（しん）苦は一通りでなかつたが、初一念を通して決して屈（くつ）しなかつた。　彼は先づペンシルヴァニヤ大學において蛇（じや）毒に關する研究に着手し、

種々の實驗を試みると共に、一方博く諸國の文
獻（けん）をあさり、夜を日についで勉強し、ねむくなれ
ば其のまゝ眠り、水とパンで飢（うゑ）をしのぎ、刻苦（こ
つく）五
十餘日で、これを大きな著述にまとめ上げた。
（新漢字　版　誌　格　留　博　著　術）
（052．ｊｐｇ）
られて、同大學の助手に擧げられ、やがてデンマ
ークに留學させられて一層其の研究を深くし、
歸米後は、ロックフェラー醫學研究所の助手と
なり、部員となり、遂には其の部長にまで進んだ。
其の間に毒蛇及び蛇毒に關する研究を始とし
て、幾多醫學上有益な業績を次々と發表して、其
の價値（かち）を學界に認められ、日本においても醫學
博士・理學博士の學位を受け、帝國學士院會員に
選ばれ、又諸國から名譽（よ）ある學位・勲章（くんしよ
う）等を贈（おく）ら
れ、細菌（さいきん）學者として世界で最も卓越（たくえ
つ）した學者の

一人となるに至つた。

眞理の探究者（たんきゆうしや）としての英世は、又常に學理の力

によつて世界人類の幸福の爲に貢獻（こうけん）することを念とした人である。　彼は人命を奪（うば）ふ微（び）細な

病原因を發見する爲に、終生惓（う）まずたゆまず努力を續けた。　殊に其の晩年十餘年間には、危険

ね熱帶傳染（せん）病を撲滅（ぼくめつ）する爲に智能（ちのう）を盡くして

奮闘し、連年エクアドル・ブラジル・メキシコ・ペルー等に出張して、或は其の病原體を明らかにし、

（新漢字　凡　助　選　福　終）

（０５３．ｊｐｇ　挿絵あり）

或は其の治療・豫防の方法を講じたりして、顕（けん著な功績をたてた。　かように彼は單に研究室に

おいて實驗を試みるだけではなく、進んで自ら

身を危險の境地にさらして少しも恐れなかつ

たのである。

しかも惜しいことには、昭（しよう）和三年五月、アフリカ西海岸において、同地に流行する熱帯傳染病にをかされ、遂に研究の犠牲（ぎせい）となつて、五十三年の生涯（しようがい）を終へたのである。　彼はアフリカへ出發する時、其の行の危險を説いて注意してくれた友人に對し、其の親切を感謝しながら、かう言つた、「私は少しも恐れる所は無い。　私は此の世界に何事かを成さんが爲に生まれて來たのである。　私はこれを完成したい。　死ぬべき時が來れば、それに赴（おもむ）く外はない。」と。

英世死去の報が天聞に達するや、勲二等に叙（じよ）し旭日（きよくじつ）重光章を授けられ、又内外かとしく此の人類の恩人の功業をたゝへない者は無かつた。

（新漢字　流　説　去　授）
（０５４．ｊｐｇ）

第十七　健康第一

將來どんな事業にたづさはるにしても、體が弱くては、だめである。　殊にブラジルの奥地のように、ちよつと藥を買はうとしても、簡單には手に入らず、又病氣にかゝつたからとて、すぐ適當な醫師に見てもらふことが出來ないよう處では一層體の健康といふことに注意しなければならぬ。　たとへ頭はいかによくても、體の健康がこれに伴なはなければ、最後の勝利はむづかしい。　何といつても、先づ第一に大切なものは體の健康である。

日本のことわざに、「病は口より入る。」といふ語がある。これは、勿論（もちろん）暴飲暴食を戒めたものであるが、ブラジルにおいては、今一つ、「病は皮膚（ひふ）より入る。」といふことをも考へなければならぬ。　皮

膚から入る病氣の中で一番多く且（かつ）恐しいのは、アマレロンとマレイタである。　此の外、奥地の人々のかゝる病氣に、フェリダ、ブラバ・シャガス病・ブラストミマージス豪どいふものがある。

（新漢字　簡　暴　飲　戒）

（055．ｊｐｇ）

アマレロンは、うつかり屋外の土地を、はだしで歩きなどして居るとかゝるもので、此の病氣にかゝつた人は、アマレロンの蟲に血を吸取られて、だんだんと元氣が無くなり、人によつては、目まひや耳鳴りがしたり、頭（づ）痛・胸（（きよう）痛・腹（ふく）痛などがしたり、又いきゞれがしたり、口がかわ　いたりして、非常に疲（つか）れ易くなるものである。

マレイタは、此の病氣にかゝつて居る人の血を吸つたアノフェレスといふ蚊（か）にさゝれるために起るもので、これにかゝると、急に寒けやふる

へが來て、熱を出し、大汗（あせ）をかくようになる。
さ
うして此の容態が何べんも繰（くり）返し繰返し起つて來ると、どんなに威勢のよい人でも、次第に衰崩して來て、遂には働けなくなつてしまふ。此のアノフェレスといふ蚊は、俗（ぞく）に「はまだら蚊」と
いひ、羽（はね）にまだらがあるもので、物に止る時には、尻（しり）をぴんと上げる習性を持つて居る。　で、若し此の蚊を見つけたら、見つけ次第、必ず殺してしまふようにしまければならぬ。　しかし、それよりももつと大事な事は、此の蚊になるぼうふら
（新漢字　易　衰　弱）

（056．ｊｐｇ）

の發生を防ぐことである。　それには、適當な溝（みぞ）を作つて、水はけの良いようにし、住宅附近に不潔（けつ）な水溜（たま）りの出來ないようにすることが必要

である。　又流のゆるやかな川や沼（ぬま）などの附近には、家を建てないようにしなければならぬ。

次に注意すべき病氣は、トラホームである。これは、此の病氣の患者（かんじや）が使つた手拭（ぬぐひ）とかハンカチとかを使つたり、目を不潔にしたりするために起るもので、もし手當を怠（おこた）ると、生まれもつかぬ盲（めくら）となることがある。　だから、此の病氣にかつた人は、一日も早く手當をしてなほさなければならぬは固（もと）より、自分の使ふ手拭などは、人のと區別し、他に傳染（でんせん）することを防がなければならぬ。

ブラジルには、なほ此の外にもいろいろ特殊な病氣があるが、在留日本人の男女を通じ、最も多くの人がかゝり、さうして最も困つて居るのは、右に述べたアマレロン・マレイタ・トラホームの三種である。　だから、これらの病氣に對しては、

平生特に注意をすることが肝（かん）要である。さう
（新漢字　區）

（057．ｊｐｇ）
して、何の病氣にせよ、もし不幸にしてかゝつた
場合には、出來るだけ早く手當をして、重くなら
ないうちになほさなければならぬ。

第十八　瀧

あへぎ登る山のかけ路に、
早や聞ゆるは瀧の音、
　あたりにひゞく瀧の音。
木（こ）の下やみをぬけ出でて、
　見上ぐれば、
　目の前に、
荒（あら）野の吹雪（ふゞき）さながらに、

落つるよ、落つるよ、眞白き流。

霧を含（ふく）む風の冷たく、

さと吹來れば、夏の日の

暑さも知らぬ岩の上、

木の下かげにいこひつゝ、

見下せば、

足もとに、

（新漢字　冷）

（058．ｊｐｇ）

磯百千の自龍の、

をどるよ、をどるよ、みどりの淵（ふち）に。

自　修　材　料　（四）

〇　ことわざ

かせぐに追ひつく貧乏（びんぼう）無し。

かはゆい子には旅させよ。

孝は百行の本（もと）。

猿（さる）も木から落ちる。
好きこそ物の上手なれ。
すき腹にまづい物無し。
短氣（たんき）は損氣
ちりも積れば山となる。
七度さがして人を疑（うたが）へ。

第十九　最後の授業

いつもの通り、私は學校へ出かけて行つた。今朝は、天氣はぽかぽかと暖いし、其の上、空はからりと晴れて居る。　森の方では、おしやべりの黒鳥がさへづり、牧場では、木挽（こびき）小屋の後の方で、プロシャ兵が調練をして居る。
村役場の前を通りかゝると、小さな鐵柵（さく）のある掲示（けいじ）場の前に、大勢の人がたかつて居た。　二年
此の方、ありとある不吉の報知や敗戰の知らせ

（新漢字　授　吉）

や、微（ちよう）發の事や、プロシヤの方のいろいろの命令

など、そんな厭（いや）なものが、みんな此處（こゝ）から來たの

であつた。　又何かあるんだなと思ひながら、足

も止めず、私はアメル先生の小さな校庭へはい

つて行つた。

あいて居る窓から見ると、私の仲間は、もうみん

なめいめいの腰掛（こしかけ）に並んで居て、先生は恐しい

鐵の定木（ぢようぎ）をかゝへ込（こ）みながら、其の前を往つた

り來たりして居られる。　私は、そつとはいつて、

私の机（つくゑ）の前にすわつた。

私は、先生が緑色の長い上衣（うはぎ）を着て、参観日（さんかんび）か賞

品授譽式の時でなければ、かぶられることのない

シルクハットをかぶつて居られるのに氣が

ついた。　そればかりか、教場には、何か俳常の事

でもありさうで、嚴かな空氣が滿渡つて居た。
しかし、一番私の驚いたのは、教場の奥の方の、いつも誰も居まい机の前に、村の人が、私等と同じくだまつてすわつて居る事であつた。　其の人たちの中には三角（かく）帽をかぶつたオーゼーぢいさん、前の村長さんなどが居た。　さうして、此の

（新漢字　教　嚴　村）

（060．ｊｐｇ）

人たちは、みんな悲しさうな顔をして居るのだ。
オーゼーぢいさんは、縁（ふち）のむしばんだ、古いＡＢＣの讀本を持つて來て、それを膝（ひざ）の上にのせ、大きな眼鏡（めがね）を、開いた本の上に置いて居た。
私が驚いて居る間に、先生は教壇（だん）に上られた。
さうしてやさしい、しかも嚴格を聲で、私等に言はれた。
「皆さん、これが皆さんに私の教へる最後の授業だ。　ベルリンから命令が來て、アルサスと

ローレーンの小學校では、ドイツ語の外は教へてはならぬと言つて來たのだ。　新しいドイツの先生が、明日着くことになつて居る。

今日は、フランス語の敎へじまひだから、わたしは、皆さんに一生懸（けん）命に聽（き）いてもらはなければならぬ。」

此の僅かな言葉が、私を「あつ」と動轉させてしまつた。「あゝ、何といふみじめな事だ。　村役場の掲示は、其の事だつたのだ。」

私のフランス語の學びじまひ。　其の私は、まだろくろく書くことさへも出來ないのだ。　それ

（新漢字　讀　嚴）

（061．ＪＰＧ）

だのに、もう二度とフランス語を習ふことが出來ないのだと思ふと、學校を休んで、鳥の巣（す）をさがし廻つたり、川で氷（こはり）すべりをして、むだに費し

た時間が、今更惜（を）しく、うらめしくなつて來た。
つい今の先まで、重がつて荷厄介（やつかい）にした教科書
も、今となつては、別れのつらい舊（きゆう）友のような氣
がする。
先生が取つておきの着物を着て來られたのも、
此の最後の授業に敬意を表する爲だつたのだ。
村の老人たちの様子も、今まで度々此の學校へ
來なかつたことを悔（くや）むように見えた。此の人
たちの來たのは、四十年も此の小學校に居て、立（りつ）
派（ぱ）に職務を盡くしてくれた私等の先生に、感謝
の意を表する爲でもあつたし、又失はれた祖國
に對する義務を盡くす爲でもあつたらしく思
はれた。
こんな事を考へて居る時、私は自分の名を呼ば
れたのに氣がついた。　私の暗誦（しよう）する番が來た
のだ。　私は早速第一の言葉にまごついてしま

つた。　胸が一ぱいにこみ上げて來て、顔を上げ

（新漢字　早）

（062．ＪＰＧ）

ることも出來ず、腰掛から立つたまゝ、だまつて居ると元生の聲が聞えた。

「フランツや、わたしは、今日はお前を罰（ばつ）しはせぬ。　しかし、お前は罰せられるのがあたりまへだ。　お前などは、毎日おきまりに言つて居た事だ、『いつでも時間はある。　明日勉強すればよい。』と。　どうだな、今日といふ今日、其の結果がお前にわかつたらう。　全體アルサス人の教育（いく）を、いつも其の通りに明日に延ばして居たのが、アルサス州の何よりの不幸せだつたのだ。　今になると、敵國の人たちは言ふだらう、『何だ、お前たちは、それでもフランス人だと言ふのか。　フランス語が書けも讀めもしない癖（くせ）に。』と。それに對して、何と返事が出來るか。」

先生の言葉は、それからそれへと盡きなかつた。
先生は、「フランス語は、我々の先祖から持傳へた大事な言葉だから、我々は此の言葉をよく護（まも）つて、決して忘れてはならない。　たとへ一國民が奴隷（どれい）の境遇（きようぐう）に落ちようとも、其の國の言葉を護つて居る間は、ちようど、ろう屋の鍵（かぎ）を持つて居るようなものだ。」と説かれた。
さうして先生は、文典（てん）を取つて、私等に読んで聞かせて下さつた。　私は、それが不思議によくわかつて行くのに驚いた。　先生の説明が實によく私の頭にはいつて行くのだ。　私は、こんなによく先生の言はれる事を聞いて居たことも無ければ、先生も、こんなにしんぼうして、説明して下さつたことも無かつたであらう。　此の氣の毒な先生は、此處を去るに臨んで、自分の知つて

居るだけの事を、一度にみんな私等の頭に詰（つめ）込んで行かうとされるように思はれた。
それが終ると、今度は、書方のけいこに移つた。
先生は、特別に私等に渡して下さる爲に、新しいお手本を用意して來られた。　其のお手本には、美しい字で、Ｖｉｖｅ　ｌａ　Ｆｒａｎｃｅ！と書かれてあつた。
めいめいが、どんなに一生懸命に字を習つたか、見せたいようだつた。　一番年の行かない生徒たちさへ、一心に、これもまたフランス語だといふ風に、脇目（わきめ）も振らず、線を引いて居た。
屋根の上では、鳩（はと）が低い聲で咽（のど）を鳴らして居
（新漢字　臨）
（０６４．ＪＰＧ）
たが、私は、それを聞きながら、つくづくと考へた、「鳩もドイツ語で鳴くように教へられるのか知ら。」と。

第二十　アンシェータ

紀元千五百三十二年、マルチン、アフォンソ、デ、ソーザが、サントスの西方サン、ヴィセンテに始めてポルトガルの植民地を建設して以來、此の地方の植民事業は急速に進展し、やがて、ビラチニンガ高原に進出するにしたがつて、次第に土人に接鯛（しよく）するようになつた。

彼等ポルトガルの植民者等が人手の不足なために、土人を捕（と）らへてこれを奴隷（どれい）とするようになつてからは、兩者の間には絶えず反目・闘（とう）争があつた。　さうして、宣教師たちは常に彼等の調停（てい）役を務めるのであつた。

ところが、此の闘争は次第に烈（はげ）しくなり、千五百六十二年頃には、サン、パウロ地方の植民事業は、達に重大な危機に直面するに至つた。

當時リオ、デ、ジャネイロに侵（しん）入して居たフラン

（新漢字　目　務）

（065．ＪＰＧ）

ス人は、ポルトガル人に對する敵愾（がい）心から、土人をおだて、遂に多數の種族をして一大聯盟（れんめい）を作らしめた。　サントス・リオ問一帶に居住するタモイヨ族も、次第に一致團結して、ポ　ルトガル人に對抗（こう）した。　これが世に名高いタモイヨ聯盟である。

やがてサン、パウロ地方におけるポルトガル人の植民地は、土人のために襲（しゆう）撃された。　サントス・サン、ヴィセンテの植民地も同様であつた。　かくてポルルトガルの植民はこれら猛（もう）惡な土人のために次々と破壞（かい）され、農民たちは、家を捨（す）て農場を捨てて、都合に避（ひ）難するのやむなきに至つた。　しかし、土人等はいよいよ結束を堅（かた）くし、ポルトガル人を皆殺しにして、其の植民地を全滅（めつ）

してしまはうと、着々戰備を進めて行つた。
常時、ジョゼ、デ、アンシェータ及びマノエル、デ、ノプレガといふ二人の僧侶（そうりょ）があつた。　二人は、身
を捨てて此の危急を救はうと決心し、サン、パウロからサントスを經、小さな一そうの丸木舟に乗つて、海路敵地に赴（おもむ）いた。
さうして、あらゆる

（066．ＪＰＧ　挿絵あり）

困難と戰ひつゝ、遂に土人の頭目が居るウバツーバへ到着した。
眞心こめた彼等の努力によつて、間もなく休戰の約が成立した。　さうして、ノブレガは、土人等が要求する和睦（ぼく）條件（けん）を携（たづさ）へ、相談の爲に、サン、ヴィセンテへ行くこととなり、其の間、アンシェータはたゞ一人人質（ひとじち）として、恐しい敵地に殘つた。それから二三箇（か）月は過ぎた。　しかし、待ちに待つノブレガは歸つて來ない。　土人等は、だんだ

んと不審（しん）を抱（いだ）き始め興奮（こうふん）しかけて來た。　かく
て土人等の間には、再び戰備が整（とゝの）へられ、熱狂（きよう）す
る土人等の叫び聲は、野山に滿ちた。
アンシェータの身邊には刻（こく）一
刻と危険がせまつて來る。
かうした中に在つてさへ、彼は
少しも平生の冷静を態度を失
はず、身を天命に任せつゝ、日毎に濱邊に出て、自
い砂の上に美しい詩（し）をつゞつては暗誦（しよう）し
て、己（おのれ）
をなぐさめて居た。
やがて、ノブレガは、和議を成立せしめて、再び此
（新漢字　求　冷　靜）
の地に歸つて來た。　此の時なほアンシェータ
は、相變らず平然として詩を作つては、これを砂
上に書きつけて居た。　これが即ち世に名高い

「ポエマ、ア、ヴィルジェン」である。　此の長い間、恐るべき野蠻（ばん）人の間に在つて、對に危難を免（まぬが）れた、

此の奇蹟（きせき）的革實は、全く天使の如く清く大なる彼の精神の賜（たまもの）であると、後日、これを知つた植民

者たちは感歎（たん）したといふことである。

第二十一　ヨーロッパ　の旅

（一）　ロンドンから

ロンドンは何といつても世界の大都合です。　テームス川を飾（かざ）るタワー橋・ロンドン橋を始め國會議事堂・大英博物館・ウエストミンスター寺院、其の他見る物、聞く物、たゞ

(068. JPG)

たゞ驚く外はありません。

昨日大英博物館を一覧（らん）しました。　陳列品の多種多様で、しかも其の數量の數限りも無いのは、さすがに世界の大博物館といはれるだけあると思ひました。　日本のよろひかぶと其の他の武器類も澤（たく）山集めてあります。

市街（がい）を見物して、私の特に感心したのは、市民が交通道徳を重んずる事です。　往來の頻繁（ひんぱん）を街上でも、よく警官（けい）の指揮（き）に

乗

従つて、混亂（こんらん）することがなく、地下鐵道・合自動車などの乗り降りにも、むやみに先を争ふようなことはありません。

（二）　パリーから

一昨日朝ロンドンを出發して、午後早く

バリーに着きました。

此處（こゝ）はさすがに芸術の都として世界に聞えて居るだけあつて、建物なども一般に壯麗（そうれい）です。

世界最美の街路といほれて居るシャン

（新漢字　交　降　爭　芸　般）

（069．ＪＰＧ　挿絵あり）

ゼリゼーの大通には、五六層もある美しい建物が道路の両側（がは）に並び、車道と人道との間には、縁したたる街路樹が、目もはるに連なつて居ます。　有名な凱旋（がいせん）門は此の大通の起點に在ります。

ルーブル博物館も一覧しましたが、立派（りつぱ）な繪畫・彫刻（ちようこく）の多いことは恐らく世界

第

一であらうと思ひました。　又エツフェル塔（とう）にも登つて見ました。　此の搭は世界で有名な高塔で、高さが三百米（メートル）もあるさうです。　搭の中には賣店もあり、音楽堂食堂なども設けられてあります。　眺（ちよう）望臺で眺（なが）めると、道を往來して居る人間や自動車などは、まるで蟻（あり）のはふように見えるし、さしもの大きなパリー市もほと

（新漢字　樹　連　賣　樂）

（070．ＪＰＧ　挿絵あり）

んど一目に見えます。

（三）　ベルリンから

汽車でドイツの國内にはいつたのは、朝まだほの暗い頃でしたが、もう沿（えん）道の田

畑（はた）には、農夫が鍬（くは）を振るつて居り、又工場
といふ工場には、盛んに黑煙が上つて居
ました。　これはイギリスやフランスな
どでは見られぬ光景で、私は今更ながら
ドイツ人の勤勉なのに驚きました。　や
がてベルリンにはいつて見ても、勤檢（けん）の
美風が市民の間に
あふれて居て、彼等
が大戰後における
自國の疲弊（ひへい）を早く
回復し得たのも、全
く此の活動による
のだと感心しまし
た。

（四）　ジュネーヴから
世界の公園といはれて居るスイスは、到

（071．ＪＰＧ　挿絵あり）

る處日本のように
景色がよい。　私は
今ジュネーヴ市の
モン、ブラン橋のて
すりにもたれて、ジ
ユネーヴ湖上の風
光に見とれて居ま
す。瑠璃（るり）色の水に
浮かぶルソー島、湖畔（はん）に連なる緑・樹・白壁
（へき）、
はるかに紺青（こんじよう）の空にそびえて雪をいた
だくアルプの連峯（ぼう）。　久しく單調・平凡な
黄色にあきて居た私には、いかにも心地
よく眺められます。

第二十二　ブラジル開拓（かいたく）の歌

大天地（おほあめつち）に照（て）りわたる
朝日仰ぎて、今日もまた
誓（ちか）ふ樂しさ、ほこらしさ。
日のごと、正しく、明らけく、
たゞましくらに進みなん。

（新漢字　緑）
（072．ＪＰＧ）

家の爲、はた國の爲、
此の世の爲に、人の爲に。

ブラジル大野（おはの）、風清く、
笑みて吹（さ）きたる草に木に、
花の樂しさ、ほこらしさ。
つちかひ、草取り、いつくしむ
我が眞心に實のるとて。
家の爲、はた國の爲、
此の世の爲に、人の爲に。

一日（ひとが）の務終りたる
夕日笑むごと、さとすごと、
はゆる樂しさ、ほこらしさ。
ふるさと遠くも渡り來て、
此の誓をば破らんや。
家の爲、はた國の爲、
此の世の爲に、人の爲に。

自　修　材　料　（五）

（新漢字　笑）

（073．ＪＰＧ）

ロンドンは何と申しても世界の大都
會に候。テームス川を飾るタワー橋
ロンドン橋を始め、國會議事堂・大英博
物館ウェストミンスター寺院、其の他
見る物、聞く物たゞたゞ驚く外これな
く候。

ロンドンは何と申しても世界の大都會に候。テームス川を飾るタワー橋ロンドン橋を始め、國會議事堂、大英博物館、ウェストミンスター寺院其の他見る物、聞く物、たゞ〳〵驚く外これなく候。

一昨日朝ロンドンを出發して、午後パリーに着き申し候。此處はさすがに藝術の都として世界に有名なるだけありて、建物なども一般に壯麗に候。世界最美の街路といはるゝシャンゼリゼーの大通には、五六層もある美しき建物道路の兩側に並び、車道と人道との間には、緑したゝる街路樹が目もはるに連なり居り候。有名なる凱旋門は此の大通の起點にこれあり候。

一昨。日朝ロンドンを出發して、午後パリーに着き申し候。此處はさすがに芸術の都としてせ界に有名なるだけありて、建物なども一般に壯麗に候。

世界最美の街路といはるゝシャンゼリゼーの大通には、五六層もある美しき建地道路の兩側に並び、車道と人道との間に緑したゝる街路樹が目もはるに連なり居り候、有名なる凱旋門は此の大通の起點にこれあり候。

(074.JPG)

漢字表

(新出)

清 熱 程 係 態 容 温 週 增 減 星 到 密

極 炭 暖 姉 妹 徳 認 確 富 處 爲 總 振

寺 院 薄 議 短 彈 謝 領 絶 統 窓 雜 僅

識 算 術 練 留 掛 借 就 翌 貸 連 醫 断

志 説 檢 織 談 想 輸 著 甚 威 賞 擧 撃

豫 苦 廢 篠 傷 収 普 英 栽 培 付 除 幸

具 察 頼 資 師 科 版 格 選 福 授 簡 暴

戒 衰 區 冷 嚴 臨 交 塾 般 樹

（讀替）
民學歩積益遠鏡速飛落雷種片増魚獣油工庭負
美兄弟友西差在形貴言作姉妹居自敬有左右思
往確丸彼受貧草炭書圓燈任萬文字位志組良行
終共結忘供主各殊元入平由遂象身雨底延到島
廻田勝古興經報直始撃沈續路逃攻絶包圍追傷
止僅極採螢森林皮藥固加筆細産羽毛消程指失
負抜ゆ幸明修都試留博著述凡助終流説去飲易弱
授吉教村讀嚴早目務求冷靜降爭連賣樂緑笑

（假名附）
四方（よも）　外（ご）　怠（おこたる）　菫（すみれ）　眞砂（まさご）　紅葉（もみぢ）　駒（こま）　海（うな）　影（エイ）　響（キョウ）

（075．ＪＰＧ）
勿（モチ）　論（ロン）　液（エキ）　粁（キロメートル）　燭（ショク）　零（レイ）　宇（ウ）　宙（チュウ）　距（キョ）　離（リ）　憶（オク）　燃（もえる）　自（シ）

智(チ)　廢(すたる)　燃(ネン)　部(へ)　煮(にる)　蝋(ロウ)　燭(ソク)　賎(セン)　寶(たから)　繁(ハン)
昌(ショウ)　朋(ホウ)　派(ハ)

雛(ひな)　祭(まつり)　節(セツ)　供(ク)　飾(かざる)
鯉(こひ)　慈(ジ)　棚(たな)　沸(ブツ)　壇(ダン)
牌(ハイ)　此處(ここ)

紋(もん)　本(もと)　宣(のる)　違(ちがふ)　含(ふくむ)　憐(あはれむ)　慈(いつくしむ)　何處(ここ)　井(ジョウ)　其處(そこ)　觸(ふれる)

脈(ミャク)　米(メートル)　乃(ノ)　容(カタチ)　闘(トウ)　閣(カク)　目(ボク)　食(ケ)　獻(ケン)　厚(コウ)
握(アク)　砲(つつ)　田(いな)

舎(か)　壁(かべ)　床(ゆか)　刈(かる)　畠(はたけ)
欲(ヨク)　是(ゼ)　哩(マイル)　厭(いごふ)　鉛(エン)
積(セキ)　何時(いつ)

優(ユウ)　偉(イ)　床(ここ)　激(はげしい)　覺(さます)　辦(ベン)　償(ショウ)　賜(たまもの)　澤(ダク)
玄(ゲン)　江(え)　杉(すぎ)　訪(たづねる)

懇(コン)　解(カイ)　剖(ボウ)　章(ショウ)　挿(さす)
臓(ぞう)　塚(つか)　刑(けい)　構(かまえる)　冊(サツ)　崎(さき)　歎(ダン)　肺(ハイ)

胃(イ)　疑(ギ)　誠(まこと)　治(チ)　療(リョウ)　翻(ホン)　譯(ヤク)　辞(ジ)　励(はげむ)　審(シン)　惜(をしむ)　稿(コウ)　悟(さとる)

符(フ)　縄(なは)　蠻(バン)　稱(ショウ)　漢(カン)
冠(かんむり)　扁(ヘン)　添(そえる)　客(カク)　管(カン)
構(コウ)　支(シ)　那(ナ)

假（カ）　併（あはせる）　割（さく）　超（こえる）　域（イキ）　脱（ダツ）　捕（ホ）　鯨（ゲイ）　名殘（なごり）　鯨（くぢら）　甲（カン）　板（ハン）

彼方（かなた）　裂（レツ）　歡（カン）　呼（コ）　込（こむ）　綱（つな）　繰（くる）　戻（もどす）　刻（こく）　紅（くれなゐ）　據（キョ）　瀬（セ）

下（しも）　關（せき）　峡（キョウ）　佐（サ）　岬（みさき）　豫（ヨ）　淡（あはい）　淡（タン）　門（ご）　灣（ワン）

未（いまだ）　忽（たちまち）　氈（セン）

敷（しく）　壁（ヘキ）　影（かげ）　漁（ギョ）　没（ボツ）　段（ダン）　趣（おもむき）　沿（エン）　阪（さか）　神戸（かうべ）　津（つ）　嚴（いくつ）

浦（うら）　源（ゲン）　眺（ながめ）　櫻（さくら）　露（ロ）　編（ヘン）　艦（カン）　鮮（セン）　哨（ショウ）　信濃（しなの）　郷（ゴウ）　司（シ）

巡（ジュン）　笠（かさ）　奮（フン）　勵（レイ）　坐（ザ）　隻（セキ）　率（ひきゐ）　岡（をか）　瓜生（うりふ）　亂（みだれる）　烈（はげしい）　怒（いかる）

熟（ジュク）　災（サイ）　炎（エン）　既（すで）　驅（ク）　逐（チク）　艇（テイ）　鬱（ウツ）　陵（リョウ）　覺（カク）　悟（ゴ）　幕（バク）　僚（リョウ）

漣（さざなみ）　陽炎（かげろう）　捕（とる）　獲（カク）　虜（リョ）　況（キョウ）　聯（レン）　奇（キ）　陛（ヘイ）　稜威（いつ）　固（もごより）

爲（イ）　靈（レイ）　護（ゴ）　由（よる）　敢（カン）　麾（キ）　卒（ソツ）　唯（ただ）　激（ゲキ）　賜（たまふ）　勅（チョク）　朕（チン）　烈（レツ）

依（よる）　宗（ソウ）　對（こたへる）　懌（よろこぶ）　泣（キュウ）　靴（くつ）　需（ジュ）　育（イク）　蘭（ラン）
印（イン）　佛（はらふ）　跡（あと）　苗（なへ）

（076．ｊｐｇ）

虎（とら）　幹（みき）　乳（ニュウ）　純（ジュン）　硫（リュウ）　硫黄（ゆおう）　軸（ヂク）　逐（おふ）　蚤（のみ）　湧（わく）　顕（ケン）　微（ビ）

誤（あやまり）　腐（くさる）　金（かな）　網（あみ）　蠅（はへ）　蛔（カイ）　掘（ほる）　鰻（うなぎ）　透（トウ）　溝（みぞ）　枚（まい）　殻（から）　殖（ショク）

歡（カン）　詰（つめる）　保（ホ）　腐（フ）　細（サイ）　英（ひで）　縣（ケン）　猪（ゐ）　苗（なは）　代（しろ）　畔（ハン）　翁（おきな）　櫨（ロ）

裏（リ）　看（カン）　癒（ユ）　腕（うで）　懸（ケン）　隣（となり）　風（フ）　呂（ロ）　箇（カ）　課（カ）　篤（トク）　亂（ラン）　繃（ホウ）

夢（ゆめ）　狂（キョウ）　喜（キ）　恵（ケイ）　其所（そこ）　境（キョウ）　遇（グウ）　傍（かたはら）　甘（あま）　辛（シン）　屈（クツ）　蛇（ジャ）

飢（うゑ）　價（カ）　値（チ）　譽（ヨ）　勳（クン）　贈（おくる）　菌（キン）　卓（タク）　越（エツ）　探（ダン）　貢（コウ）　奪（うばふ）　倦（うむ）

染（セン）　撲（ボク）　滅（メツ）　能（ノウ）　講（コウ）
昭（ショウ）　犠（ギ）　牲（セイ）　涯（ガイ）赴（おもむく）
叙（ジョ）旭（キョク）　健（ケン）

康（コウ）　伴（ともなふ）　膚（フ）　且（カツ）　頭（ヅ）
胸（キョウ）　腹（フク）　蚊（か）　汗（あせ）　俗（ゾク）
羽（はね）　尻（しり）

潔（ケツ）　溜（たまる）　沼（ぬま）　患（カン）　拭（ぬぐふ）　盲（めくら）　肝（カン）　瀧（たき）　吹雪（ふぶき）
霧（きり）　龍（リュウ）　淵（ふち）

挽（ひく）　柵（さく）　掲（ケイ）　微（チョウ）　厭（いや）
腰（こし）　定（ヂョウ）　机（つくゑ）　上衣（うはぎ）
歡（カン）　角（カク）　縁（ふち）

膝（ひざ）　眼鏡（めがね）　廳（きく）　巣（す）　氷（こほり）　厄（ヤク）　介（カイ）　舊（キユウ）　悔（くやむ）　誦（ショウ）　罰（バツ）　癖（くせ）

護（まもる）　奴（ド）　隷（レイ）　典（テン）　脇（わき）
鳩（はと）　咽喉（のど）　觸（ショク）　宣（セン）　停（テイ）　侵（シン）　愾（ガイ）

盟（メイ）　抗（コウ）　襲（シユウ）　猛（モウ）　壞（カイ）
捨（すてる）　避（ヒ）　堅（かたい）　僧（ソウ）　侶（リヨ）　睦（ボク）　件（ケン）　携（たづさへる）

質（シチ）　抱（いだく）　整（ととのへる）　詩（シ）　己（おのれ）　免（まぬかれる）　蹟（セキ）　覧（ラン）　街（ガイ）
頻（ヒン）　警（ケイ）　揮（キ）　混（コン）

壮（ソウ）　麗（レイ）　側（がは）　凱（ガイ）　旋（セン）
彫（チョウ）　塔（トウ）　眺（チョウ）　蟻（あり）　畑（はた）　鍬（くは）　勤（キン）　檢（ケン）

疲（ヒ）　弊（ヘイ）　瑠（ル）　璃（リ）　紺（コン）　青（ショウ）　峯（ホウ）　拓（タク）　地（つち）　照（てる）　誓（ちかふ）　咲（さく）

(077. jpg)

漢（かん）字（じ）索（さく）引（いん）

一此の索引は、本書使用の漢字の音・訓（くん）を檢索（けんさく）するのに備（そな）へて、總畫數で引くように編（へん）したものである。

一いはゆる常用漢字中一度も本書に出なかつた字も、×印を附して序（ついで）に之（これ）を掲（かゝ）げた。

印は、常用漢字以外の字で本書に使用した字を示し、△印は、假名附（かなつき）として本書に使用したことを示す。

一片假名は音を、平假名は訓を示し、訓は文語體を以て示した。

一數字の上は巻を、下はページを示し、就中（なかんづく）アラビヤ數字を用ひたのは、本文以外の箇（か）所（シヨ）に出したことを示す。又數字に×印が附してあるのは、其の字をあてるはずの所を假名で出したことを示す。

一（）印は讀みくせとしての特殊の發音を示し、（ナ）は主として名のりとしての讀方であることを示す。

一「」印の文字は日本で製したもので、したがつて音は無い。

一書寫體は普通に用ひられる行（ぎよう）草（そう）を掲げ、いはゆる變體假名として用ひられる草書は・印を附して之を示した。

一之は四畫に、●（ソウコウ）●（シンニユウ）も四畫に數へる例である。又乃は二畫で及は四畫、衣は六畫で衣（コロロモヘン）は五畫に數へる。此・氏・卵・以・良・長等のレは皆一畫とする。活字では、會・曾・練（但し東の字は別である）黒等は口の中を二點にするから、黄は上を廿に作るから、

成は中を丁に作るから、又食扁（へん）は●に作るから、それぞれ一畫づつ多く數へられてゐる。其の他はなるべく書寫の筆畫に従つて數へることとした。

（三畫）土・士・夕・大・女・子・寸・小・山・川・工・己・干・弓・才　（四畫）不・中・之・互・五・井・仁・仇・今・介・元・内・公・六

土　ド 五―一四　ト 五―四二　土　つち 二―六一

士　シ 五―六六　ジ 四―一一　士　さむらひ 二―六一

夕　セキ　夕　ゆふべ　〔用例〕夕刻　朝夕

大　タイ 二―四三　ダイ 二―四九　大　おほきい 一―三七　おほいに 一―四四　おほ 一―三七　大人 大和 大和 六―一一

女　ジョ 六―二五　ニョ　女　をんな 三―三八　め 七―二六　〔用例〕女人

子　シ 四―六四　（ス）四―三二　子　こ 一―四八

寸　スン 三―八二　寸　すん　〔用例〕寸前　寸分

小　ショウ 五―八　小　こ 二―六五　ちひさし 二―二二　ちひさい 二―二〇　こまし 二―二〇

山　サン 七―二　セン　山　やま 一―六六

川　セン　川　かは 一―六六　〔用例〕河川　川岸

工　コウ 五―一九　ク 八―一一　工　たくみ

己　キ　コ　己　おのれ 八―一二　おのが 八―一二　〔用例〕己れ　自己

干　カン　干　かんする　〔用例〕干犯

弓　キュウ　弓　ゆみ 四―七二

才　サイ 七―七一　才　〔用例〕才能

不　フ 五―四六　ブ　不　〔用例〕不安　不幸　不足　不服　不思議

中　チュウ 一―七　中　なか 一―四一　うち 六―一一九

之　シ　之　の　〔用例〕之　これ　八―六八　有之　無之　八―一一　八―一一　八―一一

互　ゴ　互　たがひ 五―七四　〔用例〕互助　相互

五　ゴ 一―二六　五　いつつ 一―二七

井　セイ　ショウ 七―七一　井　ゐ　ゐ 五―九六

仁　ジン　ニン　（ヒ）　仁　に　〔用例〕仁義　仁者

仇　キュウ　仇　あだ　〔用例〕仇敵

今　コン 二―七六　キン　今　いま 二―九五　今日　今朝　今年　今年　今年

月 ゲツ 四一二九 ガツ 四一六九

木 ボク 四一八〇 モク 五一一三

止 シ

比 ヒ 七一七九

毛 モウ 八一八六

氏 シ 六一八四

水 スイ 五一一二

火 カ 六一一〇七

爪 ソウ

父 フ 五一五一

片 ヘン 八一八

牙 ガ

牛 ギュウ

犬 ケン 五一六四

王 オウ 七一八

勿 モチ 六一二九

刈

世 セイ 六一六五 セ 三一三七

丙 ヘイ

主 シュ 二一二三

五畫

乏 ボウ 八一二八 モウ

仕 シ 五一二五

他 タ 七一九四

付 フ

代 ダイ 五一六五 タイ

令 レイ 五一二一 リョウ

以 イ 六一一八

兄 ケイ 八一一七 キョウ 六一三

冊 サク サツ 八一四三

冬 トウ

出 シュツ 六一四一 スイ

刊 カン

功 コウ 七一三〇 ク

包 ホウ 八一七一

北 ホク 五一一〇

半 ハン 六一五二

占 セン

去 キョ 八一九九 コ

古 コ 六一八〇

加 カ

句 ク 六一六三

叫 キョウ

召 ショウ

可 カ

史 シ 七一七

右 ユウ 八一三 ウ 六一八六

司 シ 八一六七

四 シ 一一二二

囚 シュウ

外 ガイ 四一一〇六 ゲ 七一六二

央 オウ 六一九八

失 シツ 七一六八

奴 ド 八一二七 ヌ

尼 ジ ニ

左 サ 八一三 サ

巧 コウ

巨 キョ コ

市 シ 五一一〇七

布 フ

平 ヘイ 四一一七 ヒョウ ビ 三一一〇七

幼 ヨウ 七—二〇 幼 〔用例〕幼児

必 ヒツ 七—五五 必 〔用例〕必要

打 ダ チョウ 打 〔用例〕打破

斥 セキ 斥 〔用例〕排斥

旦 タン 旦 〔用例〕旦夕・元旦

未 ミ 未 〔用例〕未来

末 バツ マツ 七—二四 末 〔用例〕末裔

本 ホン 一—四二 本・ほ 〔用例〕本来

札 サツ 二—二〇 札 〔用例〕入札

正 セイ ショウ 三—一〇九 正 〔用例〕正義・公正

母 ボ モ 七—二四 母・も 〔用例〕母国・慈母

民 ミン 六—六三 民 〔用例〕民衆

氷 ヒョウ 氷 〔用例〕氷山

永 エイ 七—四 永 〔用例〕永久・永眠

汁 ジュウ 汁 〔用例〕汁粉・果汁

犯 ハン 犯 〔用例〕犯人・犯罪

玄 ゲン 七—一〇三 玄 〔用例〕玄米・玄妙

玉 ギョク 玉 〔用例〕玉砕・宝玉

瓦 ガ 瓦 〔用例〕瓦解・瓦礫

甘 カン 甘 〔用例〕甘言

生 セイ 四—四 ショウ 四—三五 生 〔用例〕生活・誕生・産出・生涯・生産

用 ヨウ 三—七〇 用 〔用例〕用意・費用

田 デン 八—六二 田 〔用例〕田舎・水田

由 ユウ 七—四 ユ 八—五三 由・ゆ 〔用例〕理由

甲 コウ 四—三四 カン 六—一八 甲 〔用例〕甲乙・甲冑

申 シン 申 〔用例〕上申・申告

疋 ヒキ 匹（四畫）ヲ見ヨ

白 ハク 七—三 ビャク 白 〔用例〕白紙・白黒

皮 ヒ 八—七七 皮 〔用例〕皮相・外皮

皿 ベイ 皿

目 モク 八—二二 ボク 六—二六 目 〔用例〕目的

矢 シ 矢 〔用例〕光陰矢の如し

石 セキ 七—三三 シャク 六—二二 石 〔用例〕石の上にも三年居れば暖まる

示 シ ジ 七—七 示 〔用例〕示唆・訓示

穴 ケツ 穴 〔用例〕穴居・墓穴

立 リツ 六—五五 リュウ 立 〔用例〕立脚・建立・立てば芍薬の立てば芍薬の我が身に積る老も忘れて

叱 シツ 叱

尻 コウ 尻

禾 カ 七—九三

瓜 カ 瓜

且 ソ 且

六畫

交 コウ 八—二八 交 〔用例〕絶交

亦 エキ 亦

仰 ギョウ コウ 七—七 仰 〔用例〕仰臥・仰いで天にはじず

仲 チュウ 仲 〔用例〕仲介・仲裁

件 ケン 八—二四 件 〔用例〕事件

任 ニン 六—三一 任 〔用例〕任意・任命

伊 イ 六—三 伊

伏 フク 七—三三 伏 〔用例〕伏線・伏線

伐 バツ 伐 〔用例〕征伐・伐採

休 キュウ 七—四四 休 〔用例〕休息・休暇

充 ジュウ 充 〔用例〕充実・充当

兆 チョウ 兆 〔用例〕兆候・吉兆

兇 キョウ 兇 〔用例〕凶作・兇徒

先 セン 四—五 先 〔用例〕先輩・先ずは人を

光 コウ 五—五三 光 〔用例〕光栄

全 ゼン 五—二 全 〔用例〕全体・安全

共 キョウ 八—四九 共 〔用例〕共有

再 サイ 七—六二 再 〔用例〕再生・再起

刑 ケイ 八—四三 刑 〔用例〕刑罰・死刑

列 レツ 六—九七 列 ならぶ つらなる 〔用例〕列車 列挙 列国 排列

劣 レツ 劣 おとる 劣等 劣勢 〔用例〕劣者 優劣

印 イン 五四〇 印 しるし 印章 印象 〔用例〕印刷

危 キ 七—六一 危 あやぶむ 七六〇 〔用例〕危急 安危

各 カク 六—五七 各 おのおの 八五二 〔用例〕各自

合 ゴウ 七—二 ガッ 七—三 合 あう 三—五五 あはす 四—三五 〔用例〕合格

吉 キチ 六—五五 キツ 八—一〇九 吉 よし 七—一〇三 〔用例〕吉凶

同 ドウ 五—七〇 同 おなじ 二—六四 〔用例〕同盟 相違

名 メイ 五—四二 ミョウ 名 なな 二—六四 なな 二—五六 〔用例〕名代 名称 名誉

后 コウ 后 きさき 皇后 〔用例〕皇后 皇太后

吏 リ 吏 〔用例〕官吏

吐 ト 吐 はく 〔用例〕吐露

向 コウ 六—三四 キョウ 向 むかふ 二—九〇 むく 二—八 〔用例〕向背

回 カイ 六—一〇九 回 まはる めぐる まはす めぐらす 〔用例〕回復

因 イン 因 よる 〔用例〕因果 原因

在 ザイ 七—三七 在 あり 八—一五 〔用例〕存在

地 チ 五—一 チ 六—六〇 地 つち 八—二五 〔用例〕天地

多 タ 七—八五 多 おほし 四—九五 〔用例〕多数 多大

好 コウ 七—七〇 好 すく 三—五七 このむ よし よしみ 〔用例〕好調 好意

如 ジョ 二 如 ごとし 六—一二 しく 〔用例〕如露 如賀 不如意 如何

忙 ボウ 忙 いそがし いそがはし 〔用例〕多忙 忙殺

字 ジ 四—一四 字 あざ 〔用例〕字書 字典

存 ソン 七—八八 ゾン 四—三五 存 のこる 〔用例〕生存

宅 タク 六—一〇七 宅 〔用例〕邸宅

守 シュ 守 まもる 六—二五 もり 七—一一 かみ 〔用例〕守備 留守

安 アン 三—六三 安 やすし 五—七四 〔用例〕安心 安全

寺 ジ 八—一九 寺 てら

州 シュウ 六—八六 州 あくに

帆 ハン 五—四一 帆 ほ 七—五四 〔用例〕出帆

年 ネン 二—二五 年 とし 二—二二 〔用例〕年齢

式 シキ 七—二 式 〔用例〕儀式

收 シュウ 七—六二 収 おさめる 八—七二 〔用例〕収支 収入

旨 シ 旨 むね 〔用例〕趣旨

早 ソウ 七—二四 早 はやし 二—七 はやま 八—一五 〔用例〕早速 早晩

旬 ジュン 旬 〔用例〕上旬 中旬 下旬

旭 キョク 八—九九 旭 あさひ

曲 キョク 曲 まがる まげる 〔用例〕曲折 曲解

有 ユウ 八—一九 ウ 有 あり 七—六一 たもつ 〔用例〕有無 有望

朱 シュ 五—一一 朱 あか 〔用例〕朱筆 朱色

机 キ 机 つくえ 七—六九 〔用例〕机上 玉机下

次 シ 六—二六 ジ 六—五五 次 つぎ 二—二二 〔用例〕順次 次第

沖 沖（七画）の項参照 沖

此 シ 此 この 九五 これ 〔用例〕此度 此方

死 シ 六—一 死 しぬ 一—二六 〔用例〕死刑 死亡

汗 カン 汗 あせ 八—一〇三 〔用例〕汗顔 冷汗

汚 オ 汚 けがる けがす 〔用例〕汚名 汚職

江 コウ 江 え 二四—七九 〔用例〕入江

池 チ 池 いけ 三—一〇三

汝 ジョ 汝 〔用例〕汝（夜叉）自己 汝を知れ

灰 カイ 灰 はひ 二—二〇 〔用例〕石灰 水灰

百 ヒヤク 二—二五 百 もも 百合 四—一〇五

礼 禮（十八画）の項参照 礼

竹 チク 竹 たけ 二—一〇 竹刀

米 ベイ 七—六九 マイ 米 こめ 二—一〇 よね 〔用例〕白米

糸 糸（十二画）ノ略字トシテ用フ 糸

羊 ヨウ 羊 ひつじ 山羊 二—七三

羽 ウ 八—八六 羽 は 四—六二 はね 四—六二

老 ロウ 六—一七 老 おいる 〔用例〕老熟 老巧

考 コウ 考 かんがふ 三—六六 〔用例〕考案 参考

耳 ジ 耳 みみ 四—二四 〔用例〕耳目 耳に水

肉 ニク 三—五六 肉 〔用例〕肉親 牛肉

自 ジ 三—八九 シ 八 自 みづから 六—五七 より 一八 おのづから 八— 〔用例〕自然 自信

至 シ 七・四二 至 （用例）必至・至極

舌 ゼツ 舌 した（用例）口舌・舌の根・舌の先・舌の上・舌の下・舌の裏・舌の表・舌の先・舌の根・舌の裏・舌の表・舌の先・舌の根・舌の裏・舌の表・舌の先・舌の根

△局 キョク七・四四 局 つぼね 局所 時局 〔用例〕宮局

△巡 ジュン八・六七 めぐる 巡礼 巡査

△希 キ七・六七 希 ・け 〔用例〕希望

△床 ショウ 床 ゆか八・三三 とこ八・三八 〔用例〕起床

△序 ジョ七・一 序 ついで 序文 順序 〔用例〕

△延 エン七・三八 延 のば ひく のばす八・五九 延引 〔用例〕延長 延期

△廷 テイ六・二四 廷 〔用例〕法廷

×弄 ロウ 弄 もてあそぶ 〔用例〕愛弄

△弟 テイ八・一三 弟 おとうと四・二四 ダイ五・三一 弟 おとうと六・一 〔用例〕弟子 門弟

△形 ケイ七・二 ギョウ八・一五 形 かたち五・四六 かた七・一一 〔用例〕 形勢 開形

△役 エキ七・二五 ヤク三・二九 役 〔用例〕夢役 上役

△忌 キ七・二五 忌 いむ 〔用例〕忌中

△忍 ニン 忍 しのぶ 〔用例〕忍耐 堅忍持久

△志 シ八・四三 志 こころざす八・四一 こころざし 〔用例〕大志 志望 寸志

△忘 ボウ八・五〇 忘 わする三・二〇 〔用例〕忘却 健忘 年忘

△快 カイ五・五五 快 こころよし七・七四 〔用例〕快晴 快適 全快

△成 セイ七・三九 成 なる七・八二 なす八・五一 しげ（ナ）六・九四 〔用例〕成立 成功 大成 ジョウ

△我 ガ 我 われ六・一七 わが五・六四 〔用例〕無我 我々を発見する

×戒 カイ 戒 いましめる いましむ 〔用例〕警戒 戒告

△扱 ソウ 扱 あつかう七・八〇 〔用例〕取扱

×扶 フ 扶 たすく 〔用例〕扶助

×批 ヒ 批 〔用例〕批評

×技 ギ 技 わざ 〔用例〕技術 妙技

×抑 ヨク 抑 おさえる 〔用例〕抑圧 抑止

△抗 コウ八・二三 抗 〔用例〕抗議

△折 セツ 折 おる四・一八 〔用例〕折角 骨折

△投 トウ 投 なげ六・一〇 投下 〔用例〕投票

△改 カイ七・六六 改 あらたまる あらため 改正 〔用例〕改革

△攻 コウ八・六九 攻 せめ四・一〇六 〔用例〕攻撃

△更 コウ 更 さら さらに七・五 ふける 〔用例〕更衣 夜更

×朽 キュウ 朽 くち 〔用例〕不朽

△杉 サン六・八九 杉 すぎ七・四九

△材 ザイ五・七六 材 〔用例〕材料 人材 素材 木材

△村 ソン八・二二 村 むら三・二三

△束 ソク六・六四 束 たば たばね つか つかね 〔用例〕束縛 束の間 束髪 約束

△歩 ホ六・九七 歩 あるく三・六九 あゆ むく八・三 〔用例〕歩調 進歩 ブ

△毎 マイ二・二九 毎 つねに どと七・二八

△決 ケツ六・二一 決 〔用例〕決定 解決

△汽 キ三・一三 汽 〔用例〕汽船 汽車

×汰 タ 汰 〔用例〕淘汰

×沈 チン八・七〇 沈 しず 〔用例〕沈黙 沈没

△沒 ボツ七・六八 沒 〔用例〕没収 没落 出

△沖 チュウ 沖 おき三・二七

×沙 サ 沙 〔用例〕無沙汰

△求 キュウ八・二四 求 もとむ七・五八 〔用例〕要求 グ

△災 サイ六・一〇一 災 わざはひ 〔用例〕災難 天災地変

△狂 キョウ八・九二 狂 くるふ七・五八

△男 ダン七・二六 男 をとこ三・二八 ナン五・一九 〔用例〕長男

△町 チョウ 町 まち三・五三

△秀 シュウ 秀 ひいで七・一〇二 〔用例〕秀才 優秀 ひで（ハナ）

×私 シ 私 わたくし二・六三 〔用例〕私信 私費 公私

△究 キュウ七・六八 究 きはむ 〔用例〕究極 探究

△系 ケイ七・八三 系 〔用例〕系統 系図

△肖 ショウ七・六二 肖 〔用例〕不肖 肖像

△肝 カン八・一〇五 肝 きも 〔用例〕銘肝 肝胆

△良 リョウ七・六六 良 よし八・四七 （ラ）六・四四 まこと 〔用例〕良心 良人 善良

△見 ケン五・九 見 みる 〔用例〕見識 見解 みゆ あらは

△角 カク六・九五 角 かど すみ 〔用例〕「ものも言ひよう」で角が立ち つ

△言 ゲン八・一八 言 いふ 〔用例〕言葉 ことば 国語の手引 ゴン六・二二

△谷 コク 谷 たに四・五一 やつ

△豆 トウ 豆 まめ五・一七 〔用例〕大豆 小豆 豆腐 ズ

△貝 バイ 貝 かひ三・二九

赤 セキ七一三 シャク 赤 〔用例〕赤心 赤誠 赤銅

走 ソウ 走 〔用例〕走馬燈 走査 競走

足 ソク四一二八 足 〔用例〕不足 充足 補足

身 シン八一五四 身 〔用例〕立身 身代

車 シャ三一七四 車 〔用例〕横車 押車

辛 シン八一九五 辛 〔用例〕辛酸 辛抱

邦 ホウ七一二 邦 〔用例〕邦人 邦国

邪 ジャ 邪 〔用例〕邪道 正邪

里 リ三一二三 里 〔用例〕里程 里数

防 ボウ六一二〇八 防 〔用例〕防止 防衛

汲 キュウ 汲 〔用例〕汲々 汲汲

那 ナ五一六四 那 〔用例〕那辺

呂 ロ八一九一 呂 〔用例〕呂律

岐 キ 岐 〔用例〕岐路

坐 ザ八一六八 坐 〔用例〕坐禅 坐視

並 ヘイ 並 〔用例〕並木 並列

乳 ニュウ八一七七 乳 〔用例〕乳児 乳母

事 ジ五一二八 事 〔用例〕事件 事実

京 ケイ キョウ六一一〇六 京 〔用例〕京都 京師

使 シ七一六六 使 〔用例〕使者 使命

八畫

佳 カ 佳 〔用例〕佳人 佳作

來 ライ五一一〇六 來 〔用例〕来年 来月

例 レイ七一六九 例 〔用例〕例外 例年

供 キョウ八一四〇 ク八一一五 供 〔用例〕供給 供養

侍 ジ 侍 〔用例〕侍従 侍史

依 イ 依 〔用例〕依頼 依存

併 ヘイ 併 〔用例〕併合 併用

兒 ジ 兒 〔用例〕兒童

兩 リョウ二一一〇三 兩 〔用例〕兩端 兩立

具 グ八一八九 具 〔用例〕具体 具備

其 キ六一九〇 其 〔用例〕其処 其方

典 テン八一二八 典 〔用例〕典拠 古典

到 トウ八一七 到 〔用例〕到来 到着

制 セイ七一一 制 〔用例〕制度 制止

刷 サツ 刷 〔用例〕刷毛 印刷

券 ケン 券 〔用例〕証券 株券

刺 シ 刺 〔用例〕名刺 刺激

刻 コク八一五八 刻 〔用例〕刻刻 時刻

効 （効の十畫）に同じ

卑 ヒ 卑 〔用例〕卑劣 卑怯

呼 コ八一五八 呼 〔用例〕呼吸

味 ミ六一六〇 味 〔用例〕味方 味覚

周 シュウ五一四七 周 〔用例〕周囲 周期

受 ジュ八一三一 受 〔用例〕受信 受験

取 シュ 取 〔用例〕取得 取材

叔 シュク 叔 〔用例〕叔父 叔母

卷 ケン カン 卷 〔用例〕卷末 卷頭

協 キョウ 協 〔用例〕協力 協議

卓 タク五一四四 卓 〔用例〕卓越 卓抜

卒 ソツ八一七三 シュツ 卒 〔用例〕卒業 卒去

命 メイ五一二 ミョウ 命 〔用例〕命令 命名

和 ワ七一一〇一 カ 和 〔用例〕和平 和歌

固 コ 固 〔用例〕固有 固定

垂 スイ 垂 〔用例〕垂直 垂下

夜 ヤ二一七六 夜 〔用例〕夜間 夜半

奇 キ八一七二 奇 〔用例〕奇人 奇妙

奉 ホウ七一一〇 奉 〔用例〕奉公 奉仕

妹 マイ八一八 妹 〔用例〕妹 妹

妻 サイ 妻 〔用例〕妻子 妻帯

姉 シ八一八 姉 〔用例〕姉 姉

始 シ 八一六八 始 はじむ 三一五四 はじめ まり 八一二四 〔用例〕創始 始終 始祖 始末 大始

姑 コ 姑 しうとめ

姓 セイ ショウ 九一五三 姓 〔用例〕姓名

委 イ 委 まかす ゆだねる 〔用例〕委任 委細

季 キ 季 すえ 〔用例〕季子 季節 冬季

孤 コ 孤 みなしご 〔用例〕孤立 孤島

宗 ソウ 八一四 シュウ 宗 むね 六一六 八 宗教 宗旨 〔用例〕

官 カン 七一三 官 つかさ 官職 長官 〔用例〕

定 テイ 七一一 チョウ 八一一〇 定 さだむ 六一一〇 定期 一定 定命 〔用例〕

宜 ギ 宜 よろし 便宜 〔用例〕

尚 ショウ 尚 たっとぶ なお 高尚 好尚 〔用例〕

居 キョ 八一一八 コ 居 おる 三一二四 居る 三一二九

屈 クツ 七一五三 屈 かがむ まがる 屈曲 不屈 〔用例〕

岡 コウ 岡 おか 五一一〇六

岩 ガン 七一三三 岩 いわ 四一一七

岳 ガク 七一二二 岳 たけ

岸 ガン 五一二六 岸 きし 四一四九

幸 コウ 八一八八 幸 さいわい ひ 八一九一 みゆき 行幸 幸福 〔用例〕

底 テイ 八一五八 底 そこ 四一二一 到底 〔用例〕

店 テン 七一六二 みせ 二一〇三

府 フ 六一五七 府 〔用例〕政府

彼 ヒ 彼 かれ 六一六一 二九 かの 八一七一 彼方 彼此 〔用例〕

往 オウ 七一二二 往 いく 八一二一 往 ゆく 〔用例〕往復

征 セイ 征 うつ ゆく 〔用例〕征伐 遠征

忠 チュウ 七一七 忠 ただし 〔用例〕忠臣 忠孝 忠義 忠言 忠実 忠誠 忠節 忠告 忠犬 忠心 忠勇

果 カ六・二一 果 はたす はつして はたす 〔用例〕果断・果敢・果実・果物・結果・果報

枝 シ 枝 えだ 〔用例〕枝葉・枝末・枝節

武 ブ六・三〇 ム六・一 武 たけし たけ（チ）六・二四 〔用例〕武力・武勇・武士・武骨

毒 ドク三・五六 毒 〔用例〕毒蛇・毒舌・中毒

河 カ七・三三 ガ六・三三 河 かわ かう（ナ）七・五三

沸 フツ 沸 わく わかす 〔用例〕沸騰・沸点

油 ユ八・一〇 ユウ 油 あぶら 〔用例〕重油・石油・油断・火油

治 チ六・四五 チ五・一〇七 治 おさむる おさまる 〔用例〕治安・治水

沼 ショウ 沼 ぬま 〔用例〕沼沢・沼地

沿 エン八・六三 沿 そふ 〔用例〕沿岸・沿革

況 キョウ 況 〔用例〕状況・況して

泊 ハク 泊 とまる 〔用例〕宿泊・泊船

法 ホウ七・九〇 法 のり 〔用例〕法律・司法

波 ハ七・五〇 波 なみ 〔用例〕波紋・小波

泣 キュウ六・一五 泣 なく 〔用例〕感泣

泥 デイ 泥 どろ なづむ 〔用例〕泥酔・泥土

注 チュウ六・一五 注 そそぐ つぐ 〔用例〕注射・注意

泳 エイ 泳 およぐ 〔用例〕水泳

炊 スイ 炊 かしぐ たく 〔用例〕炊飯・自炊

炎 エン 炎 ほのお 〔用例〕炎症・炎暑

爭 ソウ六・九六 爭 あらそふ いかで 〔用例〕競爭・爭議

版 ハン八・九四 版 〔用例〕出版・版図

牧 ボク 牧 まき 〔用例〕牧畜・牧場

物 ブツ五・九 モツ四・三三 物 もの 〔用例〕物質・物理学

狀 ジョウ 狀 〔用例〕形狀・近狀・書狀

玩 ガン 玩 もてあそぶ 〔用例〕玩具・玩弄

的 テキ七・七九 的 まと 〔用例〕目的・的中

盲 モウ 盲 めくら 〔用例〕盲人・文盲

直 チョク七・七一 チキ三・一〇九 直 なほす ちなほす ただちに すぐ 〔用例〕直線・直立

知 チ五・九一 知 しる しらす 〔用例〕知識・知己・告知・通知

社 シャ五・一一 社 やしろ 〔用例〕社会・社説

空 クウ三・七八 空 そら むなし 〔用例〕空前・空想

殴 オウ 殴 なぐる

股 コ 股 もも また

肥 ヒ 肥 こゆ こやし とこ 〔用例〕肥料・肥満・肥大

肩 ケン 肩 かた 〔用例〕双肩

育 イク八・七六 育 そだつ 〔用例〕養育・育英

舎 シャ 舎 や 〔用例〕校舎・宿舎

芝 シ 芝 しば 〔用例〕芝生・芝居

花 カ 花 はな 〔用例〕花弁・花瓶・生花

芽 ガ 芽 め 〔用例〕芽生・芽生

芳 ホウ 芳 かんばし よし（ナ） 〔用例〕芳香・芳烈

虎 コ 虎 とら 〔用例〕虎穴・虎視・虎皮

表 ヒョウ六・一五 表 おもて あらはす 〔用例〕表示・表現・表情

迎 ゲイ 迎 むかふ 〔用例〕歓迎・迎撃・迎合

近 キン二・二六 コン 近 ちかし 〔用例〕近来・近代

返 ヘン五・一八 返 かへる かへす 〔用例〕返答・返報

邸 テイ 邸 やしき 〔用例〕邸宅

金 キン三・一〇三 コン五・六四 金 かね 〔用例〕金庫・金属

長 チョウ六・一七 長 ながし 〔用例〕長刀・長所・長短・特長

門 モン三・二六 門 かど 〔用例〕門人・名門・家門

附 フ七・六〇 附 つく 〔用例〕附属・添附

雨 ウ八・五六 雨 あめ あま 〔用例〕春雨・梅雨・雨傘

青 セイ六・九六 ショウ八・一五 青 あを 〔用例〕青年・青春・青空

非 ヒ五・七五 非 あらず 〔用例〕非難・是非

宙 チュウ八・七 宙

鬼 キ 鬼 おに

忽 コツ 忽 たちまち

奈 ナ六・四四 奈 な

峰 コウ 峰 みさき

昆 コン八・七九 昆 きつね

狐 コ 狐

竣 シュン 竣 〔用例〕竣工

▲芭 バ六六一六〇

九畫

亭 テイ チン
こう・てい 〔用例〕料亭

侮 ブ
あなどる 〔用例〕侮辱 自らを侮りて敵を侮る 人これを侮る

侯 コウ
〔用例〕諸侯 侯爵

修 修（十畫）の同じ

侵 シン八一三二 侵 おかす
侵略 侵害

便 ベン七一四〇 ビン
便 たより ×五一〇六
〔用例〕便宜 便利 便通

係 ケイ八一四 係 かかる かかはる
〔用例〕關係 係員

促 ソク 促 うながす
〔用例〕催促 促進

俊 シュン 俊 としなり
〔用例〕俊才 俊敏

俗 ゾク八一〇六 俗
〔用例〕通俗 風俗 俗語

保 ホ四一二六 保 たもつ
保存 保守 保護

俠 キョウ 俠 侠
〔用例〕義俠 俠氣

信 シン六一八五 信 まこと
〔用例〕信用 通信

冠 カン 冠 かんむり
八一五一

則 ソク六一八二 則 のり すなはち のつとる
〔用例〕法則 規則

削 サク 削 けずる
〔用例〕削除 添削

前 ゼン五一一六 前 まへ
五一三七

勅 敕 チョク六一二八 勅
〔用例〕勅語

勇 ユウ四一四八 勇 いさむ いさましし
〔用例〕勇猛 勇敢 勇ましい 勇ましい

勉 ベン六一八〇 勉 つとむ
〔用例〕勤勉 勉強

南 ナン（ナ）七一六 南 みなみ
〔用例〕南米 南氷洋

厘 リン 厘
厘

厚 コウ八一三一 厚 あつし
〔用例〕厚薄 厚遇

叙 敘 ジョ八一九九 叙 ついで のぶ
〔用例〕叙述

咽 イン 咽 のど むせぶ
〔用例〕咽喉 咽頭 咽泣

哀 アイ 哀 あはれ かなし
〔用例〕哀愁 哀歌

品 ヒン七一一四 品 しな
〔用例〕品位 品格

型 ケイ七一三三 型
〔用例〕模型 鑄型

奏 ソウ 奏 かなで
〔用例〕奏上 演奏 奏樂

契 ケイ 契 ちぎる
〔用例〕契約 契機

奔 ホン 奔 はしる
奔走 出奔

姪 テツ 姪 めい

姻 イン 姻 婚姻
〔用例〕姻戚 親族

姿 シ 姿 すがた
〔用例〕姿態 姿勢 風姿

要 ヨウ七一八九 要 かなめ
〔用例〕要領 要害 要點

威 イ八一六〇 威 おどす
威嚇 威勢 威厳

客 カク六八一五 キャク六一四
〔用例〕客車 乘客

宜 セン八一三二 宜 のぶ のる
〔用例〕宜言 宜明

室 シツ六一七八 室 むろ

封 フウ六一五九 ホウ 封
〔用例〕封印 封建

屋 オク七一九三 屋 や
三一九八

【峠】 たうげ

帝 テイ六一五五 帝 みかど
〔用例〕帝王

帥 スイ六一〇三 帥
〔用例〕統帥

度 ド二一九〇 タク 度 たび
度量

建 ケン七一七 コン 建 たつ
〔用例〕建築

廻 カイ六一一一 エ 廻 めぐる まはる まはす
八一六二 五一五三 五一四六

待 タイ 待 まつ
〔用例〕待遇

律 リツ五一六 リチ 律 のり
〔用例〕律義 法律

後 コウ六一八三 ゴ五一五 後 のち うしろ おくれる
〔用例〕後日 後世 後悔 後事 後輩 後に 後に

怒 ド ヌ 怒 いかる
〔用例〕憤怒

思 シ八一二一 思 おもふ
思召 思想 思惟 思慮

急 キュウ六一四四 急 いそぐ
〔用例〕急流 急行

怠 タイ 怠 おこたる

恨 コン 恨 うらむ
〔用例〕遺恨

拜 ハイ六一九四 拜 たがむ
〔用例〕拜見 拜領

括 カツ 括 くくる
〔用例〕一括

拾 シュウ ジュウ 拾 ひろふ
〔用例〕拾得 收拾

持 チ 持 もつ
〔用例〕持病 所持

指 シ 八一八八 指 ゆび 三一八二 ゆびさす 〔用例〕指定・指紋

政 セイ 六一五七 ショウ 六一二六 政 まつりごと 六一八六

故 コ 七一八三 故 ゆえ 六一二五 もと 六一二五 こ ことさら 〔用例〕事故・故人

施 シ セ 施 ほどこす 〔用例〕施設・実施

星 セイ 日一 星 ほし 八一七

春 シュン 春 はる 四一六九 〔用例〕陽春・春風

映 エイ 六一九 映 うつる うつす はゆ 〔用例〕映画・映写

昭 ショウ 八一九八 昭 あきらか 〔用例〕昭和

昨 サク 五一二〇七 昨 昨日 五一二一二 〔用例〕昨今

是 ゼ 八一三四 是 これ 〔用例〕是非・国是

枯 コ 枯 かる からす 七一九一 〔用例〕枯死・枯渇

架 カ 架 かく 〔用例〕架橋・十字架

柿 シ 柿 かき 五一一九

柄 ヘイ 柄 え つか から 〔用例〕身柄・国柄

某 ボウ 七一二五 某 それがし なにがし

染 セン 五一四二 染 そめる 七一二一 しむ 〔用例〕染色

柔 ジュウ ニュウ 柔 やわらか 〔用例〕柔道・柔和

査 サ 査 しらべる 〔用例〕査定・調査・検査

枢 キュウ 枢 ひつぎ

柱 チュウ 柱 はしら 三一二四 〔用例〕柱石

柳 リュウ 柳 やなぎ 〔用例〕柳の枝に風折れ

段 ダン 七一三六 タン 段

泉 セン 七一二二 泉 いずみ 七一二七

洋 ヨウ 五一四四 洋 なだ

洗 セン 洗 あらう 三一二七

津 シン 津 つ 八一六三

洪 コウ 洪 おおみず

洲 シュウ 六一二八 ス 五一九 洲 しま

活 カツ 六一八二 活 いかす いく 〔用例〕生活・活動

派 ハ 七一七六 派 〔用例〕派遣・派出

炭 タン 八一一〇 炭 すみ 八一三五

牲 セイ 七一八六 牲 いけにえ

狩 シュ 狩 かり 五一九〇 かる

珍 チン 珍 めずらし 四一二四

甚 ジン 七一八九 甚 はなはだ 八一五三 〔用例〕甚大・深甚

畏 イ 畏 おそる 〔用例〕畏敬・畏多い

界 カイ 三一二七 界 さかい 〔用例〕限界

【畑】 畑 はたけ 八一二三

皆 カイ 皆 みな 四一二七 〔用例〕皆無・皆勤

疫 エキ ヤク 疫 〔用例〕疫病・疫神

皇 コウ オウ 六一五五 ノウ 五一五七 皇 きみ すめらぎ 〔用例〕皇室・皇帝

盆 ボン 盆

相 ソウ 七一四四 ショウ 相 あい 五一五九 〔用例〕相場・相談・相撲・首相

省 セイ ショウ 省 かえりみる 〔用例〕反省・省略・官省

眉 ビ ミ 眉 まゆ 〔用例〕眉毛・眉間

看 カン 七一六一 看 みる 〔用例〕看護・看板

砂 サ シャ 六一一六 砂 すな 五一一〇 〔用例〕砂糖・砂金

研 ケン 六一六八 研 とぐ 〔用例〕研究

科 カ 八一九三 科 〔用例〕科学・理科

秋 シュウ 秋 あき 六一四七

祈 キ 祈 いのる 七一五 〔用例〕祈願

突 トツ 七一二八 突 つく 六一二七 〔用例〕突如・衝突

窃 セツ 窃 〔用例〕窃取

竿 カン 竿 さお 六一一〇

紀 キ 五一四〇 紀 〔用例〕紀元・風紀

美 ビ 八一二二 ミ 六一四二 美 うつくしい 〔用例〕美術・美風

者 シャ 六一八五 者 もの 三一六九

耐 タイ 耐 たえる こらえる 〔用例〕耐久・耐火

肺 ハイ 八一四四 肺

胃 イ 五一七〇 胃

約 ヤク 六一六四 約 〔用例〕約束・節約

紅 コウ グ 紅 くれない 七一六 〔用例〕紅葉・紅白・紅茶

背 ハイ 肖 せ四・九六 そむく 【用例】背任・違背

胎 タイ 胎 【用例】胎内・母胎

胞 ホウ 七・四八 胞 【用例】同胞

致 チ 七・四 致 いたす 【用例】風致・合致

臥 ガ 臥 ふす 【用例】起臥

苑 エン 七・六三 苑 その 【用例】花苑・林苑

苗 ビョウ 苗 なえ 【用例】苗代・種苗・早苗

若 ジャク ニャク ニヤク 若 わかし 【用例】老若・若干

苦 ク 五・四五 苦 くるし にがし 【用例】苦労・苦味・苦手

英 エイ 八・七五 英 ひで 【用例】英雄・英才・英語

茂 モ 七・二 茂 しげる 【用例】繁茂

虐 ギャク 虐 しいたげ 【用例】虐待・虐殺

訂 テイ 訂 ただす 【用例】訂正・改訂

計 ケイ 五・四六 計 はかる 【用例】計画・計算

負 フ 八・八九 負 おふ まく 【用例】負債

貞 テイ 貞 ただし さだ 【用例】貞女・貞節

赴 フ 赴 おもむく 【用例】赴任

軌 キ 軌 【用例】軌道・軌跡

軍 グン 四・九 軍 いくさ 【用例】軍隊・軍閥

迫 ハク 迫 せまる 【用例】迫害・切迫

述 ジュツ 八・九六 述 のべ 【用例】述懐・著述

郊 コウ 郊 【用例】郊外

重 チュウ チョウ 六・九三 重 おもし かさなる しげ 【用例】重大・重要

降 コウ 六・一〇 降 くだる ふる おりる 【用例】降車

限 ゲン 七・八八 限 かぎり 【用例】限度・限界

郎 ロウ 二・六五 郎

面 メン 四・二四 面・も つら おもて 【用例】面会・面白

革 カク 革 かは あらため あらた む 【用例】改革・革新

音 オン イン 六・九九 音 ね 【用例】音楽・音色

風 フウ フ 六・七 風 かぜ 【用例】風邪・風呂・風情

飛 ヒ 八・七 飛 とぶ 【用例】飛行機

食 ショク ジキ 五・七一 食 くら 【用例】食事・八・三〇

首 シュ 七・一六 首 くび かしら はじめ 【用例】首尾・頭首

香 コウ 香 にほひ かをり 【用例】香水・香油

桐 サク 八・一〇九

秋 ショク 秋 ぬぐふ 八・一〇四

俗 ゾク 八・二三

恙 ゲン 恙 ひつ 五・二六

虹 コウ 虹 にじ 五・六七

垣 エン 垣 かき 五・一〇

咲 ショウ 咲 さく 三・五四

柑 カン 七・八三

扁 ヘン 八・五一

軒 ケン 軒 のき

十畫

乗 ジョウ 七・四七 乗 のる 五・九 【用例】乗合・乗船

修 シュウ シュ 七・一七 修 おさむ 八・九三 【用例】修理・修繕・修身・修学・家治・国平・天下

俳 ハイ 六・八九 俳 【用例】俳句・俳諧

倖 コウ 倖 さち 【用例】倖給・倖月

倉 ソウ 七・四三 倉 くら 七・一五 【用例】倉庫・倉庫

個 コ 個 【用例】個人・一個

倍 バイ 六・二五 倍 ます 【用例】倍加

倒 トウ 倒 たふる たふす 【用例】倒閣・倒壊

候 コウ 候 うかがふ さぶらふ 七・一八 【用例】候補・時候

借 シャク シヤク 借 かる 八・三七 【用例】借用・借家

倫 リン 倫 【用例】倫理・人倫・絶倫

兼 ケン 兼 かね 【用例】兼任

凌 リョウ 凌 しのぐ 八・九五

准 ジュン 准 なぞらふ

凍 トウ 凍 こほる こごゆ 【用例】凍出・凍傷・凍水

涼 （第十一畫に掲ぐ）

剛 ゴウ 五・六四 剛 こはし つよし 【用例】剛毅・剛強

原 ゲン 七・二五 原 はら もと 【用例】原理・原因

員 イン 六―一七 員 〔用例〕人員

哲 テツ 哲 〔用例〕哲人

唐 トウ 唐 〔用例〕唐から七―三

埋 マイ 埋 〔用例〕埋める 埋没

城 ジョウ 五―二九 城 しろ 四―一三 〔用例〕城 一五

夏 カ 夏 〔用例〕夏 夏至

娘 チョウ 娘 むすめ 一―四七

嫉 ゴ 嫉 〔用例〕嫉妬

嬢 シン 嬢 〔用例〕妊娠

孫 ソン 五―五六 孫 〔用例〕子孫

宮 キュウ 六―二四 宮 みや 六―一二 〔用例〕宮殿

害 ガイ 七―八八 害 さいなむ 〔用例〕害 害毒

宴 エン 六―八七 宴 〔用例〕宴会

家 カ 六―一〇五 家 いえ 三―九七 ケ 七―五 〔用例〕家 一四

容 ヨウ 八―五 容 いる かたち 八―二九 〔用例〕容 容姿

射 シャ 七―二四 射 いる 四―一〇七 〔用例〕射 射撃

展 テン 七―八三 展 のび 〔用例〕展 展開

峯（峰） ホウ 八―二五 峯 かね 五―六二 〔用例〕峯 高峯

島 トウ 八―六一 島 しま 四―九四 〔用例〕島 半島 列島 群島

峽 キョウ 七―三三 峽 はざま 〔用例〕海峽 峽間

差 サ 八―一〇 差 さす 六―六 たがう 〔用例〕差 差額

庫 コ 七―四三 庫 くら 〔用例〕庫 倉庫

座 ザ 六―二五 座 〔用例〕座 座右銘

席 セキ 五―四三 席 むしろ 〔用例〕席 席次 臨席

師 シ 八―九二 師 〔用例〕教師

徐 ジョ 徐 しずか おもむろ 〔用例〕徐行

徑 ケイ 徑 こみち 〔用例〕小徑

庭 テイ 八―二一 庭 にわ 四―二五 〔用例〕庭園 庭球

弱 ジャク 八―一〇五 弱 よわい 四―八二 よわる 四―二五 〔用例〕病弱 弱肉強食

徒 ト 四―四四 徒 いたずら 七―六八 かち 〔用例〕徒然 徒歩

恐 キョウ 恐 おそる 五―五八 おそれる 五―六〇 〔用例〕恐怖

恥 チ 恥 〔用例〕恥辱

恩 オン 六―八八 恩 めぐみ 〔用例〕恩 恩恵 恩を知らずに乞食をする

恭 キョウ 恭 うやうやしい 〔用例〕恭敬

息 ソク 息 いき 五―一〇〇 いこう やむ 〔用例〕息子 息災 息吹

悔 カイ ゲ 悔 くやむ 八―一二五 くい 〔用例〕後悔 悔恨 悔を立てたず

悟 ゴ 八―七一 悟 さとる 八―四九 〔用例〕悟 悟性 悟れば凡夫でも仏

扇 セン 扇 あおぐ 六―七一 おうぎ 七―六九 〔用例〕扇子

挿（揷） ソウ 挿 さす 八―四二 さしはさむ 〔用例〕挿絵 挿入

振 シン 振 ふる 八―一九 ふるう 〔用例〕振興

捕 ホ 八―五六 捕 とらえる 八―一二一 〔用例〕捕獲

格 カク 八―一〇 格 コウ 六―七―一八 たすける 〔用例〕格 格言 人格

根 コン 六―八四 根 ね 一―五五 〔用例〕根 根絶

株 シュ 株 かぶ 〔用例〕株式会社

校 コウ 三―二二 校

栗 リツ 栗 くり

朕 チン 八―七三 朕

時 ジ 三―二六 時 とき 二―八一 時計 五―四六 何時

書 ショ 八―三七 書 かく 三―五四

旅 リョ 七―五〇 旅 たび 四―三一 〔用例〕旅 旅行

料 リョウ 六―八一 料 〔用例〕料金

效（効） コウ 七―九二 効 ならう いたす きく 〔用例〕效 效能

栽 サイ 八―六七 栽 う える（植） 〔用例〕栽培

案 アン 五―九九 案 〔用例〕案 案内

桐 トウ 桐 きり

桃 トウ 桃 もも 五―一八

殊 シュ 八―九二 殊 こと 七―一一 〔用例〕殊 特殊

桑 ソウ 桑 くわ 六―三六 〔用例〕桑 桑田

流 リュウ 八―九 ル 流 ながる ながす 〔用例〕流 流行

浦 ホ 浦 うら 三―二三

氣 キ 三―二六 氣 〔用例〕氣 氣象

殉 ジュン 殉 〔用例〕殉死

浪 ロウ 浪 なみ 〔用例〕浪 放浪

浮 フ
浮 〔用例〕浮力 浮説

浴 ヨク 七一二七
浴 〔用例〕浴場 浴室

海 カイ 四一九
海 〔用例〕海岸 海軍

浸 シン
浸 〔用例〕浸水

消 ショウ 八一八六
消 〔用例〕消失 消防

涉 ショウ 七一八八
涉 〔用例〕干涉 交涉

泰 タイ
泰 〔用例〕安泰 泰西

烈 レツ 八一七三
烈 〔用例〕熱烈 烈女

特 トク 六一三一
特 〔用例〕特別 特質

狹 キョウ
狹 〔用例〕狹小 狹量

珠 シュ
珠 〔用例〕珠玉

班 ハン
班 〔用例〕一班 首班

留 リュウ 八一九五
留 〔用例〕留置 留意

疲 ヒ 八一三三
疲 〔用例〕疲弊 疲勞

疾 シツ
疾 〔用例〕疾走 疾病

病 ビョウ 三一四四
病 〔用例〕病気 病人

症 ショウ
症 〔用例〕症狀 症狀

益 エキ 七一八八
益 〔用例〕益友 利益

眞 シン 五一一〇七
眞 〔用例〕眞理 眞實

眠 ミン
眠 〔用例〕不眠症

砲 ホウ 五一一
砲 〔用例〕砲丸

破 ハ 七一五八
破 〔用例〕破壞 破産

祖 ソ 五一六
祖 〔用例〕祖國 祖父

祕 ヒ
祕 〔用例〕祕密 祕藏

祝 シュク 五一四三 シュウ
祝 〔用例〕祝賀 祝福

神 シン 五一五一 ジン 五一一一
神 〔用例〕神經 神代

租 ソ
租 〔用例〕租稅

秩 チツ 七一一
秩 〔用例〕秩序

笑 ショウ 五一四
笑 〔用例〕笑顔 笑

粉 フン
粉 〔用例〕製粉 粉末

紋 モン 七一五
紋 〔用例〕波紋 紋章

納 ノウ 七一一〇 トウ
納 〔用例〕納稅 出納

純 ジュン 七一六
純 〔用例〕單純 純粹

紙 シ 七一二三
紙 〔用例〕紙幣 白紙

級 キュウ
級 〔用例〕級友 等級

紛 フン
紛 〔用例〕紛失 紛爭

素 ソ 七一二五 ス
素 〔用例〕素材 素手

紡 ボウ
紡 〔用例〕紡績

索 サク
索 〔用例〕索引 捜索

缺 ケツ 七一六七
缺 〔用例〕缺乏 缺席 不可缺

翁 オウ
翁 おきな 八一八七

耕 コウ
耕 〔用例〕耕作 耕地

胴 ドウ
胴

脅 キョウ
脅 〔用例〕脅迫

胸 キョウ 六一一〇三
胸 〔用例〕胸中 度胸

能 ノウ 八一九七
能 〔用例〕能力 才能

脈 ミャク 八一三一
脈 〔用例〕脈搏 動脈

脊 セキ
脊 〔用例〕脊柱

臭 シュウ
臭 〔用例〕臭氣 悪臭

航 コウ 五一四〇
航 〔用例〕航海 航路

般 ハン 八一二九
般 〔用例〕一般 全般

茶 チャ 四一一一 サ 六一八九
茶

草 ソウ 八一三三
草 〔用例〕草花 草案

荒 コウ
荒 〔用例〕荒廢 荒涼

蚊 ブン
蚊 かや 七一八八

袖 シュウ
袖 〔用例〕袖口 袖

衰 スイ 八一一〇三
衰 〔用例〕衰亡 盛衰

被 ヒ
被 〔用例〕被害 被告

討 トウ
討 〔用例〕討議 征討

訓 クン
訓 〔用例〕訓戒 教訓

（十畫）託・記・財・起・軒・辱・迷・追・退・送・逃・除・隻・高・骨・馬・鬼・鳥・翅・鼠・貢・釘

託 タク 託 〔用例〕託宣

記 キ 五一二 記 〔用例〕記述

財 ザイ 財 〔用例〕財政

起 キ 七一七二 起 〔用例〕起原

軒 ケン 七一二三 軒 のき 五一二二

辱 ジョク ニク 辱 はずかしめ かたじけなし 〔用例〕侮辱

迷 メイ 迷 まよう 四一八六 〔用例〕迷信

追 ツイ 八一七一 追 おう 四一七二 〔用例〕追究

退 タイ 七一六〇 退 しりぞく 七一五四 〔用例〕退歩

送 ソウ 送 おくる 五一七二 〔用例〕送別

逃 トウ 逃 にげる 四一三二 のがれる 八一九九 〔用例〕逃避

逆 ギャク ゲキ 逆 さからう 〔用例〕逆境

郡 グン ぐん 郡 こおり

酌 シャク 酌 くむ

配 ハイ 四一七九 配 くばる 〔用例〕配布

酒 シュ 酒 さけ 四一五二 さか 四一八七 〔用例〕酒宴

釜 フ 釜 かま

針 シン 六一八二 針 はり 三一八五 〔用例〕針路

陛 ヘイ 六一六三 陛 〔用例〕陛下

院 イン 八一一九 院 〔用例〕病院

陣 ヂン 五一六五 陣 〔用例〕陣営

除 ヂョ 七一九〇 除 のぞく 八一七八 〔用例〕除外

隻 セキ 八一六八 隻 〔用例〕隻手

馬 バ マ 七一九五 馬 うま 四一一四〇 〔用例〕馬脚

骨 コツ 骨 〔用例〕骨肉

高 コウ 六一八三 高 たかし 三一八三 〔用例〕高貴

鬼 キ 鬼 おに 四一七九 〔用例〕鬼神

鳥 ウ 鳥 かもす 六一一

翅 シ 翅 にわ 八一一三

【鼠】 鼠 はたけ 五一二三 はた

貢 コウ 八一九七 貢 みつぎ

釘 テイ 釘 くぎ 六一一四

（十畫）剖・捲・假・脇・倭・宰・偉・偏・停・健・側・偶・副・動・勘・務・區・唯・啓・問・商・唱・國・域・執・培

剖 ボウ 八一四二 剖 さく

捲 バン 捲 ひく 八一一九

蛋 ソウ 蛋 のみ 七一八八

畔 ハン 八一八七 畔

脇 キョウ 脇 わき 八一二九

倭 ワ 倭 やまと 六一三一

宰 サイ 六一八六 宰

【理】 理 ツイル 七一三八

偉 イ 八一三七 偉 〔用例〕偉人

假 カ 八一五二 假 かり 八一七 〔用例〕假定

十一畫

偏 ヘン 偏 かたよる ひとへに 〔用例〕偏見

停 テイ 七一四五 停 とどむ 〔用例〕停止

健 ケン 七一三九 健 すこやか 〔用例〕健全

側 ソク 側 そば かわ 八一二四 〔用例〕側面

偶 グウ 偶 たまたま 〔用例〕偶像

副 フク 副 そえ 〔用例〕副業

動 ドウ 三一七四 動 うごく 三一八一 うごかす 三一四三 〔用例〕動力

勘 カン 勘 〔用例〕勘定

務 ム 七一四七 務 つとめ 八一二二 つとむ 〔用例〕任務

區 ク 八一二〇五 區 〔用例〕區別

唯 イ 唯 ただ 八一七三

唱 ショウ 二一六二 唱 〔用例〕唱歌

參 サン 六一一〇 參 かつて 〔用例〕參加

啓 ケイ 啓 ひらく 〔用例〕啓蒙

問 モン 六一八五 問 とう 五一六一 〔用例〕問題

商 ショウ 四一五一 商 あきなう 〔用例〕商賣

國 コク 四一一〇六 國 くに 二一八一 〔用例〕國家

域 イキ 八一五三 域 〔用例〕領域

執 シツ シュウ 執 とる 〔用例〕執筆

培 バイ 八一七六 培 〔用例〕培養

× **基** キ　基（用例）基礎

△ **堀** クツ　掘（用例）堀り六―九三

△ **堂** ドウ五―七一　堂（用例）正堂

△ **姫** キ　姫（用例）姫ひめ六―三一

× **婚** コン　婚（用例）婚姻

△ **婦** フ七―四五　婦（用例）主婦

△ **宿** シュク六―九七　宿（用例）宿題　宿直

△ **寄** キ七―九〇　寄（用例）寄生　寄宿

△ **密** ミツ八―八　密（用例）密接不離

△ **將** ショウ四―八　將（用例）將来　將門

△ **專** セン　專（用例）專門

△ **尉** イ七―二六　尉

× **崇** スウ　崇（用例）崇拝　崇敬

△ **崎** キ　崎（用例）崎き八―四四

× **崩** ホウ　崩（用例）崩御　崩壊

△ **巢** ソウ　巣（用例）巣二―二

× **帳** チョウ　帳（用例）帳簿

× **帶** タイ七―三三　帶（用例）帶び七―一　おび

△ **常** ジョウ五―七五　常（用例）常識

△ **康** コウ七―三九　康（用例）健康

△ **張** チョウ　張（用例）張る五―二五　緊張

△ **彩** サイ七―一　彩（用例）水彩画

△ **彫** チョウ八―三三　彫（用例）彫刻

△ **得** トク七―四四　得（用例）得る七―三　得失六―八二

△ **從** ジュウ七―三九　從（用例）從ったが六―二四　從業

△ **御** ギョ六―八七　御（用例）御者　制御

ゴ四―一〇　御（用例）御み五―五七

△ **患** カン八―二四　患（用例）患う　患者

△ **悼** トウ　悼（用例）哀悼

△ **惰** ジョウ七―七　惰（用例）惰性に人

怠の惰性なり子

△ **惜** セキ　惜（用例）惜しむ　惜別

× **捧** ホウ　捧（用例）捧げて

△ **捨** シャ　捨（用例）捨てる　捨て

× **掃** ソウ　掃（用例）掃除

△ **授** ジュ八―一〇九　授（用例）授ける八―九九

× **排** ハイ　排（用例）排水　排列

△ **掛** ケ　掛（用例）心掛ける　かけ七―七五　かく八―三六

△ **探** タン六―八一　探（用例）探す　探検

× **接** セツ七―七一　接（用例）應接

△ **控** コウ　控（用例）控除

× **推** スイ七―四八　推（用例）推薦

△ **敍** 敘（九畫）ノ同ジ

× **教** キョウ八―二一　教（用例）教化

× **敏** ビン　敏（用例）敏感

△ **救** キュウ　救（用例）救う六―一九　救済

△ **敗** ハイ七―六八　敗（用例）敗北

△ **斜** シャ　斜（用例）傾斜

× **斬** ザン　斬（用例）斬新

△ **旋** セン八―一三〇　旋（用例）周旋

△ **族** ゾク七―八一　族（用例）家族

△ **旣** キ　既（用例）既に八―六九　既成

△ **晝** チュウ七―一四　昼（用例）昼ひる四―八〇

× **曹** ソウ　曹（用例）法曹

× **朗** ロウ　朗（用例）明朗

× **望** ボウ七―六七　望（用例）望む　大望　望月

モウ　のぞみ六―六二

× **梅** バイ　梅（用例）梅ろめ

△ **條** チョウ八―七〇　條（用例）條件　條約

× **梨** リ　梨　なし

△ **械** カイ五―八七　械（用例）機械

△ **欲** ヨク八―三四　欲（用例）欲する　欲望

× **欺** 欺（十二畫）ノ俗字

× **殺** サツ　殺（用例）殺す　相殺

セツ　殺（用例）殺生四―八四　そぐ

△ **涼** リョウ　涼（用例）涼しい六―一〇〇　涼味

（涼）　涼（用例）涼しい六―一〇〇　清涼

△ **液** エキ六―八一　液（用例）液体　血液

× **淑** シュク　淑（用例）貞淑　淑女

涙 ルイ　なみだ　六—四八　〔用例〕落涙

淡 タン　八—六一　あはし　うすし　〔用例〕淡水

淨 ジョウ　きよし　〔用例〕淨化

深 シン　ふかし　三—一〇三　〔用例〕深謀

混 コン　八—二三九　まじる　〔用例〕混雜

清 セイ　きよし　八—三　〔用例〕清水なる七—一二七　きよ（すが）し　六—一〇一

淺 セン　あさし　四—四一　〔用例〕淺慮

添 テン　そ（ふ）す　八—五一　〔用例〕添附

猛 モウ　八—二三　たけし　〔用例〕猛烈

率 リツ　ソツ　ひきゐる　引率　〔用例〕率先

現 ゲン　七—四　あらはす　あらはる　〔用例〕現在

球 キュウ　六—二五　〔用例〕野球

理 リ　七—一三　〔用例〕理想

瓶 ヘイ　ビン　五—一八　かめ　〔用例〕水瓶

産 サン　七—七六　うむ　八—三　〔用例〕産業

略 リャク　はぶく　〔用例〕省略

異 イ　五—六九　〔用例〕異常

眼 ガン　ゲン　まなこ　六—一一　〔用例〕眼鏡

粗 ソ　七—二四　あらし　〔用例〕粗衣

粘 ネン　ねば　〔用例〕粘着

粒 リュウ　つぶ　四—一三　〔用例〕粒子

第 ダイ　五—一〇九

符 フ　八—四九　〔用例〕符合

笛 テキ　〔用例〕汽笛

章 ショウ　五—六七　〔用例〕文章

窓 ソウ　〔用例〕窓掛

移 イ　七—九四　うつる　うつす　〔用例〕移植

紫 シ　むらさき　〔用例〕紫外線

累 ルイ　わづらひ　係累

粟 ゾク　八—三二　〔用例〕粟粒

細 サイ　七—六六　ほそし　〔用例〕細密

紳 シン　〔用例〕紳士

終 シュウ　八—九七　をはる　つひに　七—三八　〔用例〕終結

組 ソ　八—四六　くみ　〔用例〕組合

翌 ヨク　八—三八

習 シュウ　六—七九　ならふ　〔用例〕習慣

脚 キャク　あし　五—一〇　〔用例〕立脚

脫 ダツ　八—五三　ぬ（ぐ）　〔用例〕脫出

舵 ダ　かぢ　〔用例〕舵手

舶 ハク　ふね　〔用例〕船舶

船 セン　六—一七　ふね　〔用例〕船客

荷 カ　に　四—三三　〔用例〕荷物

莊 ソウ　ショウ　〔用例〕莊重

處 ショ　ところ　八—一四　此處　其處　何處　八—一〇　八—一六　八—一九　何處　〔用例〕處分

蛇 ジャ　四—一〇　ダ　へび　六—七三　〔用例〕蛇足

術 ジュツ　八—三五　すべ　〔用例〕技術

袋 タイ　ふくろ　六—三一　〔用例〕郵袋

規 キ　五—六　〔用例〕規則

訟 ショウ　〔用例〕訴訟

訪 ホウ　とぶ　とぶ　七—四二　〔用例〕訪問

許 キョ　七—七〇　ゆる　六—四　ばかり　〔用例〕許可

設 セツ　七—三九　まう　七—三五　〔用例〕設置

豚 トン　〔用例〕豚肉

貧 ヒン　ビン　七—八〇　〔用例〕貧乏

貨 カ　〔用例〕貨物

販 ハン　〔用例〕販賣

貫 カン　つらぬく　〔用例〕貫徹

責 セキ　七—八七　せむ　〔用例〕責任

軟 ナン　やは　〔用例〕軟弱

透 トウ　八—八五　すく　とほる　すかす　〔用例〕透明

逐 チク　八—六九　おと　〔用例〕逐次

途	通	速	造	連	部	郵	野	釣	閉	陳	陰
ト 五―一〇六	ツウ 六―四八	ソク 八―七	ゾウ 五―七二	レン 七―三五	ブ 六―二九	ユウ	ヤ 七―二	チョウ	ヘイ	チン 六―九七	イン 七―四七
途	通	速	造	連	部	郵	野	釣	閉	陳	陰
〔用例〕途中	〔用例〕通貨・通路	〔用例〕速力・高速度	〔用例〕造物主・製造	〔用例〕連結・連絡	〔用例〕部分・部署	〔用例〕郵便	〔用例〕野心	〔用例〕釣錨	〔用例〕閉止	〔用例〕陳列・陳腐	〔用例〕陰気・陰影

陵	陶	陷	陸	雪	頂	頃	飢	魚	鳥	鹿	麻
リョウ 八―七	トウ	カン	リク 四―九四 ロク	セツ	チョウ	ケイ	キ	ギョ 八―一〇	チョウ 四―二四	ロク	マ
陵	陶	陷	陸	雪	頂	頃	飢	魚	鳥	鹿	麻
〔用例〕山陵・御陵	〔用例〕陶器	〔用例〕缺陥・陥落	〔用例〕大陸・着陸	〔用例〕吹雪・雪塵	〔用例〕頂戴・頂上	〔用例〕頃日	飢	〔用例〕魚うを 五―八九	〔用例〕鳥類・とり 三―四七	〔用例〕鹿しか 五―一〇	あさ

麥	黄	黒	笠	菫	脆	雀	陸	陶	陳	陰	陵
バク	黄十二畫ニ同ジ	黒十二畫ニ同ジ	リュウ	キン	チョウ 八―一三	ジャク	リク 四―九四 ロク	トウ	チン 六―九七	イン 七―四七	リョウ 八―七
麥	黄	黒	笠	菫	脆	雀	陸	陶	陳	陰	陵
むぎ 三―五四			かさ 七―八五	すみれ 八―三	ながめる 五―二一	すずめ 六―四 雀躍	着陸	陶器	陳腐	陰気	山陵

掘	傍	傑	備	割	剰	創	勝	勞	博	善	喫
クツ	ボウ	ケツ	ビ 七―三九	カツ	ジョウ	ソウ 七―八六	ショウ 八―六三	ロウ 七―四七	ハク 七―四 ハク(カ) 七―五二	ゼン	キツ
掘	傍	傑	備	割	剰	創	勝	勞	博	善	喫
ほる 七―三四	傍	〔用例〕傑作	備	〔用例〕分割	〔用例〕剰余	〔用例〕創作	〔用例〕優勝	〔用例〕功勞	〔用例〕博士	善	喫茶

喜	喉	喪	堪	堪	場	報	壹	奢	媒	婿	寒
キ 八―九二	コウ	ソウ	カン 八―五五		チョウ 七―四七	ホウ 八―六七	イツ イチ	シャ	バイ	セイ	カン
喜	喉	喪	堪	堪	場	報	壹	奢	媒	婿	寒
〔用例〕客劇・歓喜	喉	〔用例〕喪中・喪失	〔用例〕堪能		〔用例〕場合・相場	〔用例〕報告・報酬	壹	〔用例〕奢侈	媒介・媒酌	むこ	寒さむし 六―四六

富	尊	堪	堪	報	場	壹	奢	媒	婿	寒	富
フ 八―一三 フウ	ソン 六―六四										
富	尊	堪	堪	報	場	壹	奢	媒	婿	寒	富
〔用例〕富貴・豆富	〔用例〕尊重・自尊									〔用例〕寒暖	とむ

尋 ジン
尋 たずね 四・三八 ひろ
尋常 〔用例〕 千尋 〔用例〕

就 シュウ 六・九六 ジュ
就 つく 八・三八 なる
就職 〔用例〕 成就 〔用例〕

帽 ボウ 六・六〇
帽

幅 フク
幅 はば 七・九九

幾 キ
幾 いく 五・六五
幾何 〔用例〕 幾許 〔用例〕

強 キョウ 六・八〇
強 つよし 四・一一 しひて
強力 〔用例〕 強制 〔用例〕

復 フク 七・二二
復 かへる また ふたたび
復命 〔用例〕 復讐 〔用例〕

悲 ヒ
悲 かなし 四・三二
悲哀 〔用例〕 悲痛 〔用例〕

惑 ワク
惑 まどふ
惑星 〔用例〕 迷惑 〔用例〕

惠 ケイ 八・九三 エ
惠 めぐみ
智惠 〔用例〕 惠惠 〔用例〕

惡 アク 七・九七 オ
惡 わるし 五・二四 あし
惡化 〔用例〕 惡寒 〔用例〕 惡魔 〔用例〕

惰 ダ
惰 おこたる
惰力 〔用例〕 怠惰 〔用例〕

惱 ノウ
惱 なやむ なやます
惱殺 〔用例〕 苦惱 〔用例〕

愉 ユ 五・五五
愉 愉快 〔用例〕

提 テイ
提 さげ ひつさげ
提案 〔用例〕 提出 〔用例〕 前提 〔用例〕

描 ビョウ
描 えがく
描寫 〔用例〕 素描 〔用例〕

揚 ヨウ 六・八一
揚 あがる あげ
揚揚 〔用例〕 揚 〔用例〕

換 カン
換 かへる
換氣 〔用例〕 交換 〔用例〕

握 アク 八・二二
握 にぎる 六・六三
握手 〔用例〕

揭 ケイ 八・一〇九
揭 かかげ
掲載 〔用例〕 前掲 〔用例〕

揮 キ 八・二二八
揮 ふるふ
揮毫 〔用例〕 指揮 〔用例〕

援 エン
援 たすく
援軍 〔用例〕 救援 〔用例〕

掌 ショウ
掌 たなごころ つかさどる
掌握 〔用例〕 職掌 〔用例〕

敢 カン 八・七三
敢 あへて
勇敢 〔用例〕 不敢 〔用例〕

散 サン 七・三七
散 ちる ちらす
散歩 〔用例〕 散散 〔用例〕

斯 シ
斯 この かく
斯道 〔用例〕 如斯 〔用例〕

晩 バン 四・六九
晩 おそし おくる
晩成 〔用例〕 大器晩成 〔用例〕

普 フ 八・七四
普 あまねし
普通 〔用例〕 普及 〔用例〕

景 ケイ 五・八 ケ 五・八
景 かげ
景氣 〔用例〕 光景 〔用例〕

晴 セイ
晴 はる 四・一二八
晴天 〔用例〕 晴雨 〔用例〕

晶 ショウ
晶 あき
結晶 〔用例〕 水晶 〔用例〕

智 チ 八・六四
智 さとし
智慧 〔用例〕 智力 〔用例〕

曾 ソウ ソ 七・一三
曾 かつて
未曾有 〔用例〕

替 タイ
替 かへる かふる
交替 〔用例〕 爲替 〔用例〕

最 サイ 六・四六
最 もつとも
最近 〔用例〕 最早 〔用例〕

朝 チョウ 七・四八
朝 あさ
今朝 〔用例〕 朝 〔用例〕

期 キ 七・九二 ゴ 六・九
期 ちぎる
期間 〔用例〕 學期 〔用例〕

棄 キ
棄 すつ
棄權 〔用例〕 棄捨 〔用例〕

棒 ボウ 五・四六
棒

棟 トウ
棟 むね 七・六四 むな

森 シン 八・七六
森 もり
森林 〔用例〕 森嚴 〔用例〕

棺 カン
棺 ひつぎ
棺 〔用例〕 納棺 〔用例〕

植 ショク 六・七八
植 うう
植 〔用例〕 扶植 〔用例〕

款 カン
款 〔用例〕 款項 〔用例〕

欺 キ
欺 あざむく
欺 〔用例〕 詐欺 〔用例〕

殖 ショク 七・九
殖 ふゆ ふやす
殖 〔用例〕 繁殖 〔用例〕

殘 ザン 七・二八
殘 のこる のこす
殘 〔用例〕 殘存 〔用例〕

滅 ゲン 八・六
滅 〔用例〕 滅 〔用例〕

渡 ト 七・八五
渡 わたる
渡 〔用例〕 渡御 〔用例〕

測 ソク
測 はかる
測定 〔用例〕 觀測 〔用例〕

港 コウ 五・二二
港 〔用例〕 入港 〔用例〕

湖 コ 七・三六
湖 〔用例〕 湖水 〔用例〕

渴 カツ
渴 かわく
渴望 〔用例〕 飢渴 〔用例〕

湯 トウ
湯 ゆ
熱湯 〔用例〕 湯藥 〔用例〕

淵 エン
淵 ふち
淵源 〔用例〕 深淵 〔用例〕

湧 ユウ
湧 わく
湧出 〔用例〕

無 ム 六・二二 ブ 六・一〇六
無 なし
無 〔用例〕

滋 ジ
滋 しげし
滋養 〔用例〕 滋味 〔用例〕

然 ゼン 七・二八 ネン
然 しかり しからば しかれども
然 〔用例〕 天然 〔用例〕

爲 イ 七・六二
爲 ため
爲 〔用例〕 行爲 〔用例〕

牌 ハイ 八・一六
牌 〔用例〕 金牌 〔用例〕

△猫 ビョウ 猫ねこ七一二三

×猶 ユウ 七一二三 猶 なほ 猶豫 ゆう 〔用例〕過ぎたるは猶及ばざるが如し

×琴 キン 琴こと 提琴 〔用例〕

×朔 セイ 朔きひ

×番 バン 四一八六 番つがひ 番組 〔用例〕番地 〔用例〕

×畫 ガ 七一六二 カク 七一三八 畫 ゑ 畫家 〔用例〕畫策 〔用例〕

×疎 ソ 疎 〔用例〕疎略 〔用例〕

×痘 トウ 痘 〔用例〕種痘 〔用例〕天然痘

×痛 ツウ 七一八九 痛 いたむ いたし 四一九九 痛切 〔用例〕心痛 〔用例〕

×病 リ 病 〔用例〕疫病 〔用例〕赤病 下病

×登 トウ 登 のぼる 登山 〔用例〕登録 〔用例〕

△發 ハツ 五一六九 ホツ 發 あばく 發表 〔用例〕發起 〔用例〕

△盛 セイ 七一四二 盛 さかり 六一五三 ん 五一〇九 もる 七一一三 盛 〔用例〕盛大 〔用例〕

△盜 トウ 盜 ぬすむ 盜難 〔用例〕強盜 〔用例〕

×着 チャク 七一三九 着 きる 四一三 五一四 着 つく 着々 着 〔用例〕着實 〔用例〕

△短 タン 八一一〇八 短 みじかし 八一一三 〔用例〕短期 〔用例〕短唐

×硬 コウ 硬 かたし こはし 強硬 〔用例〕硬骨 〔用例〕

×硯 ケン 硯すずり 硯北 筆硯 〔用例〕

△税 ゼイ 二一五七 税 〔用例〕發税 詳税

×程 テイ 八一八八 程 ほど 八一四 程度 〔用例〕過程 〔用例〕

×童 ドウ 童 わらは わらべ 〔用例〕童心 童心は兒童

△筆 ヒツ 八一七九 筆 ふで 五一六八 〔用例〕筆致 〔用例〕加筆

×等 トウ 六一八三 等 ら 五一七 〔用例〕等閑 等閑 ひとし 等 〔用例〕等 〔用例〕

△筋 キン 七一七三 筋 すぢ 七一三 筋骨 〔用例〕筋 〔用例〕

×筒 トウ 筒つつ 〔用例〕 〔用例〕

×答 トウ 答 こたへ 三一一九 〔用例〕答辯 〔用例〕回答

×策 サク 策 〔用例〕策略 〔用例〕

×絡 ラク 絡 〔用例〕 〔用例〕

×結 ケツ 六一三 結 むすぶ 八九 〔用例〕結束 〔用例〕結婚

×絶 ゼツ 七一三九 絶たゆ 八一三二 たやす 七一九六 たつ 八一七 〔用例〕絶對 〔用例〕

×絲（糸） シ 四一一〇五 絲 いと 三一六七 〔用例〕生糸

×統 トウ 八一三二 統 すべ 〔用例〕統御 〔用例〕統制 統治

△給 キュウ 六一二一 給 たまはる 〔用例〕給仕 たまふ 給料

△腕 ワン 腕 うで 七一七三 腕力 〔用例〕

×菊 キク 菊

△菌 キン 八一九七 菌 きのこ 〔用例〕細菌

△菓 カ 四一六四 菓 〔用例〕菓子 菓子屋

△菜 サイ 二一〇一 菜 な 野菜 〔用例〕菜食 〔用例〕

×華 カ 華 はな 華美 〔用例〕精華 〔用例〕

×虛 キョ 虛 むなし 空虛 〔用例〕虛實 〔用例〕

△蛙 ア 蛙 かへる 三一三〇 〔用例〕井の蛙 井の中の蛙 大海を知らず

×衆 シュウ 七一三 衆 おほし 衆議 〔用例〕民衆 〔用例〕

△街 ガイ 七一六七 街 ちまた 街道 〔用例〕市街 〔用例〕

△裁 サイ 三一四 裁 たつ 〔用例〕裁判 裁縫

×補 ホ 補 おぎなふ 補助 〔用例〕補綴 〔用例〕

×裕 ユウ 裕 ゆたか 餘裕 〔用例〕裕福 〔用例〕

△裂 レツ 八一五七 裂 さく 破裂 〔用例〕決裂 〔用例〕

×視 シ 視 みる 視察 〔用例〕監視 〔用例〕

×詐 サ 詐 いつはる 詐欺 〔用例〕詐取 〔用例〕

×訴 ソ 訴 うつたふ 〔用例〕告訴 訴訟

×診 シン 診 みる 診察 〔用例〕回診 〔用例〕

×詞 シ 詞 ことば 〔用例〕歌詞 〔用例〕

×詠 エイ 詠 よむ 八一一七 〔用例〕詠歌 詠嘆

×象 ショウ 八一五四 ゾウ 六一七五 象 かたどる 〔用例〕象徵 〔用例〕表象

×貯 チョ 貯 〔用例〕貯金 〔用例〕

×評 ヒョウ 評 〔用例〕評議 〔用例〕評判

×貳 ジ 二 貳 〔用例〕副貳的

×貴 キ 七一九〇 貴 たふとし 八一七 つとぶ 〔用例〕貴族 〔用例〕貴重

×買 バイ 買 かふ 三一二五 〔用例〕買收

×貸 タイ 貸 かす 八一三八 〔用例〕貸付 〔用例〕貸與

×費 ヒ 七一三九 費 つひやす 六一八三 ひゆ 〔用例〕費用 〔用例〕費用

貿 ボウ 七一三六 貿（用例）貿易

賀 ガ 五一四三 賀（用例）賀詞 賀状

超 チョウ 超 こゆ 八一五三（用例）超過 超越

越 エツ △八一九七 越・を 七一三六（用例）越年 引越

距 キョ 八一七 距（だつ）（用例）距離

軸 ジク 五一七六 軸（用例）中軸

週 シュウ 八一六 週（めぐり）（用例）週間

進 シン 六一一 進す・む 四一二一（用例）進歩

逸 イツ 七一四五 イチ 逸（用例）逸話 散逸

都 ト 五一一〇六 ツ 八一九三 みやこ 三一八四 すべて 都・つ（用例）都会 都度

酢 サク 酢す

量 リョウ 七一八三 はかる 量る（用例）量産 分量

鈍 ドン 鈍（用例）鈍し 愚鈍

開 カイ 七一四〇 開（用例）開く 一一五 開業

閑 カン 閑・か（用例）閑雅 長閑

陽 ヨウ 七一四 陽（用例）陽光 夕陽

間 カン ケン 三一四六 ゲン 四一六七 四一八二 間（あひだ）二一六六 ひま しづか 三一七九

隆 リュウ 隆（たかし）（用例）隆盛 興隆

隊 タイ 六一二四 隊

階 カイ 七一一〇 階（きざはし）（用例）段階

雄 ユウ 雄を 四一五九 雄能 英雄

雅 ガ 雅（用例）高雅 風雅

集 シュウ 七一七〇 集 あつまる 三一一三五 あつむ 四一二一〇 つどふ（用例）集合 集散

雇 コ 雇やとふ

雲 ウン 雲くも 四一一

項 コウ 項（用例）項目 事項

順 ジュン 七一三八 順 したがふ（用例）順調 順序

黄 コウ オウ 七一二 黄き 三一一六 硫黄 八一九（用例）

黒 コク 五一一 黒くろ 四一一

猪 チョ 猪 ゐ 八一六七

殻 カク 殻 から 六一七八

鼠 ガイ △八一二三〇 鼠

閲 ジュン △五一一三 閲 うるふ

菅 カン 菅 すが 六一八四

棚 ホウ 棚 たな 五一四七

棉 メン △七一八三 棉 わた △七一九一

菱 リョウ 菱 ひし 七一一

蜆 カイ △八一八四 蜆

須 シュ ス 六一二一 須す

十三畫

篤 ショウ 八一七二 篤（用例）篤実 篤信

傷 ショウ 八一七二 傷 きず 八一七一 いた む きずつく（用例）傷害 負傷

債 サイ 債（用例）債務 負債 債権 国債

傳 デン 五一六四 傳 つたへる 五一二四 つたふ（用例）伝記 手傳

催 サイ 催す もよほす 催促 開催

亂 ラン 八一九一 亂 みだる 八一六九 みだす（用例）亂暴 戦亂

勤 キン 八一三三 勤 つとむ（用例）勤務 勤勉

勢 セイ 六一一 セ △六一三〇 勢・せ いきほひ 六一三三（用例）勢力

募 ボ 募 つのる 募集 応募

働 ドウ 七一四七 働 はたらく 五一七〇（用例）働き 労働者 稼働

傾 ケイ 傾 かたむく 傾向 傾斜

僅 キン 八一七二 僅 わづか 八一三四（用例）僅少

嗣 シ 嗣 つぐ（用例）嗣子 後嗣

園 エン 五一一〇八 園 その（用例）花園 園芸

圓 エン 七一三九 圓（用例）圓満

塔 トウ 七一九三 塔

塗 ト 塗 ぬる（用例）塗料

奥 オウ オク 四一四九 奥（用例）奥深 奥様

嫁 カ 嫁 よめ（用例）嫁 とつぐ 許嫁

嫌 ケン 嫌（用例）嫌疑 嫌忌

幹 カン 幹 みき 八一七七（用例）材幹 幹部

廉 レン 廉 かど 廉価 廉恥心

廊 ロウ 五一一一 廊（用例）廊下

徴 ビ 八一八三 ミ 徴 かすか（用例）徴収 徴兵

想 ソウ 八一四九 想（用例）想像

慎 シン 六一八七 慎 つつしむ（用例）慎重

（十三畫）愁・意・愚・愛・感・慈・損・搖・搜・携・敬・新・暇・暖・暗・暑・會・楠・業・極・滑・滅・溺・溶・溢・準・源・毀・殿・歲・滑・滅・溺・溶・溢・準・源・毀・殿・歲・滑・滅・溺・溶・溢・準・源・毀・殿・歲

著 チャク チョ 八—九六 著 あらはす いちじるし 八—五三 顯著

葬 ソウ 葬 とむらふ むる 〔用例〕葬式 はふ 葬

蜂 ホウ 蜂 はち 〔用例〕蜂起

號 ゴウ 六—四四 號 さけぶ 〔用例〕号泣 怒號

裏 リ 八—八八 裏 うら 七—六 〔用例〕裏面 表裏

裝 ソウ ショウ 裝 よそほふ 〔用例〕服裝 裝束

裸 ラ 裸 はだか 〔用例〕赤裸

解 カイ 八—四二 解 とく 〔用例〕分解 理解 解散

試 シ 八—九四 試 こころむる ためす 七—六八 〔用例〕試驗 試問

詩 シ 六—八七 詩 〔用例〕詩歌 詩人

詰 キツ 詰 なじる つむ 八—八六 〔用例〕詰問 詰責

話 ワ 四—七〇 話 はなし 二—九三 はなす 〔用例〕講話

詳 ショウ 詳 くはし 〔用例〕詳細

誇 コ 誇 〔用例〕誇張

豊 豊十八畫の項参照

賃 チン 賃 〔用例〕賃貸 賃金

賄 ワイ 賄 まかなひ 〔用例〕收賄

資 シ 八—九一 資 〔用例〕資本 出資

賊 ゾク 七—九五 賊 そこなふ 〔用例〕盜賊 賊軍

跡 セキ 跡 あと 七—一一九 〔用例〕足跡 事跡

路 ロ 五—四〇 路 みち 八—六九 ろ 七—〇一 〔用例〕路傍

較 カク コウ 較 くらべる 〔用例〕比較

載 サイ 載 のす 〔用例〕記載 積載

農 ノウ 七—四七 農 〔用例〕農業 農民

遂 スイ 遂 とげる 八—五三 つひに 七—三 〔用例〕遂行

遇 グウ 八—九三 遇 あふ 〔用例〕千載一遇 不遇

遊 ユウ 遊 あそぶ 五—七九 〔用例〕遊學 外遊

運 ウン 六—三〇 運 はこぶ 七—五五 めぐらす 〔用例〕運命 幸運

過 カ 七—三七 過 すぐる 六—八七 あやまち 〔用例〕過度 過失

道 ドウ 六—九五 道 みち 二—七九 〔用例〕道程

違 イ 違 ちがふ 八—二八 たがふ 〔用例〕相違

達 タツ 七—八四 タチ 七—二四 達 〔用例〕到達 達成

鄉 キョウ 七—二四 ゴウ 六—一〇〇 郷 〔用例〕故郷 郷里 〔郷〕は〔郷〕に入るべきもの

酬 シュウ 酬 むくいる 〔用例〕報酬

鈴 レイ 七—四一 リン 六—二〇 鈴 すず 七—六三

鉛 エン 八—五五 鉛 なまり

鉢 ハツ ハチ 七—一〇七 鉢

隔 カク 隔 へだつ 〔用例〕隔離 遠隔

隙 ゲキ 隙 すき ひま 〔用例〕隙間 間隙

雌 シ 雌 めす 〔用例〕雌雄 雌伏

零 レイ 八—五 零 こぼる 〔用例〕零下 零落

雷 ライ 八—八 雷 かみなり 五—八八 いかづち 〔用例〕雷鳴

電 デン 五—八六 電 いなづま 〔用例〕電流

靴 カ 靴 くつ 七—四七

頓 トン 頓 たちまち 〔用例〕頓挫 頓首

預 ヨ 預 あづかる 〔用例〕預金

頑 ガン 頑 かたくな 〔用例〕頑固

飲 イン 飲 のむ 六—二六 〔用例〕飲食 飲料

飯 ハン 二—四四 飯 めし 一—一〇〇 いひ

駝 チ 駝 〔用例〕駱駝 一—四四

鳩 キュウ 鳩 はと 八—一九

鼓 コ 鼓 つづみ 〔用例〕鼓吹

靖 やすし 六—九五

猿 エン 猿 さる 九—六二 〔猿〕の人まね 〔猿〕の猿智恵

稜 リョウ 稜 御稜威 六—七二

溝 コウ 溝 みぞ 八—八五

廏 リョウ 廏 とまや

艇 テイ 八—七〇

塚 チョウ 塚 つか 七—一三

溜 リュウ 溜 たまる 八—一〇四 蒸溜

慨 ガイ 八—二四

聽 ボク 八—二四 むつまじ

十四畫

像 ゾウ 六—九四 像〔用例〕想像

僕 ボク 五—七〇 僕〔用例〕從僕

僚 リョウ 八—七一 僚

偽 ギ 仮 いつはる〔用例〕偽造・偽善

僧 ソウ 八—二三 僧〔用例〕僧尼

嘉 カ 嘉 よみする〔用例〕嘉納・嘉言

嘆 数十五畫ニ同ジ

圖 ト 八—一四 ヅ 七—八一 図 はかる〔用例〕圖書・地圖

團 ダン 七—八四 団 かたまる〔用例〕團結・團結・團結

塵 チン 塵 ちり〔用例〕塵埃・塵芥・塵土

境 キョウ 八—九三 ケイ 六—九四 境 さかひ〔用例〕境遇・境内

墓 ボ 墓 はか 五—六〔用例〕墓碑

壽 ジュ 七—一〇 寿 ことほぐ〔用例〕壽命

夢 ム 六—一九 夢 ゆめ 八—九二〔用例〕夢中

奪 ダツ 奪 うばふ 八—九七〔用例〕奪取

奬 ショウ 奬 すすむ〔用例〕奬勵

嫡 チャク テキ 嫡〔用例〕嫡子

察 サツ 八—九〇 察〔用例〕觀察・推察

寢 シン 五—三四 寝 ねる 七—八一〔用例〕寢食・寢室

實 ジツ 五—六七 実 まこと みのる 七—九〇〔用例〕實實・結實

對 タイ 六—五六 ツイ 対〔用例〕相對・絶對

慕 ボ 八—七一 慕〔用例〕慕府

態 タイ 八—五 態 わざ〔用例〕態度・情態

慘 サン 惨 むごし〔用例〕慘狀・慘憺

慢 マン 慢〔用例〕慢性・自慢

慣 カン 慣 なる ならはし〔用例〕「習慣」は第二性の天性

慨 ガイ 慨〔用例〕憤慨・感慨

摘 テキ 摘 つむ〔用例〕摘發・指摘

旗 キ 七—一 旗〔用例〕旗下

榮 エイ 六—六三 栄〔用例〕榮轉

構 コウ 八—五二 構〔用例〕構造・結構

歌 カ 七—一〇五 歌 うた 四—一〇九 うた 五—三四〔用例〕歌道・短歌

滯 タイ 五—一〇五 滞〔用例〕滯在・停滯

滴 テキ 滴 したたる 八—一三〔用例〕點滴・石垂

滿 マン 四—二九 満 みつ 五—一一 みたす〔用例〕滿足・滿潮

漁 ギョ 八—六三 漁 すなどる あさる いざる〔用例〕漁夫・漁火

漂 ヒョウ 漂 ただよふ〔用例〕漂白・漂流

漆 シツ 漆 うるし〔用例〕漆器

漏 ロウ ロ 漏 もる もらす〔用例〕漏洩・漏電

演 エン 演 のべ〔用例〕演說・講演

漠 バク 漠〔用例〕漠然・砂漠

漢 カン 八—五〇 漢 から〔用例〕漢文・漢方

漫 マン 漫 みだりに そぞろに〔用例〕漫然・散漫

漸 ゼン 漸 ようやく 七—一五〔用例〕漸次・漸進

爾 ジ 七—四一 ニ 爾 なんぢ〔用例〕爾來・爾後・爾餘

獄 ゴク 獄〔用例〕地獄・出獄

疑 ギ 八—四四 疑 うたがふ 五—三四〔用例〕疑問・懷疑

盡 ジン 尽 つく つくす 五—六〇〔用例〕盡力・無盡藏

磁 ジ 六—一二 磁〔用例〕磁氣

禍 カ 禍 わざはひ〔用例〕禍福・禍根

福 フク 八—九七 福 さいはひ〔用例〕福祉・幸福

種 シュ 七—八九 種 たね 八—八〔用例〕種子・種類

稱 ショウ 八—五〇 称 となふ〔用例〕稱賛・自稱

端 タン 七—四〇 端 はし はた 六—四〇〔用例〕端正・先端

算 サン 八—三五 算 かぞふ〔用例〕算術・計算

管 カン 八—五二 管 くだ 六—七六〔用例〕管理・所管

粹 スイ 粋〔用例〕純粹

精 セイ 七—二九 ショウ 精〔用例〕精神・精米・精選・精進

綠 リョク ロク 八—二四 緑 みどり 六—五一〔用例〕綠色・綠葉

維 イ 維〔用例〕維持

綱 コウ 綱 つな 七—二五〔用例〕綱領・大綱

綱 モウ 網 あみ 八—八〇〔用例〕網羅

× 綴 セツ テイ 綴 つづる とづ 綴方 綴字 〔用例〕

× 綻 タン 綻 ほころび 綻び

△ 綿 メン七一七〇 綿 わた 〔用例〕綿密

△ 罰 バツ八一二六 罰 〔用例〕刑罰

× 署 ショ 署 〔用例〕官署 署名

△ 閨 ブン七一一〇七 モン 閨 きこゆ 五一二八 五一五一 〔用例〕閨閥 一見に知るかず

△ 腐 フ八一八六 腐 くさる 八一八三 〔用例〕腐敗 腐心

△ 臺 ダイ七一五七 タイ 臺 うてな 〔用例〕臺所 老臺 舞臺

與（与） ヨ六一六二 与 あたえる くみする とも あずかる 〔用例〕

△ 舞 ブ 舞 まふ 七一二〇 〔用例〕舞踊 舞台

△ 誓 セイ 誓 ちかふ 八一二五 〔用例〕誓約

△ 誕 タン五一一三 誕 〔用例〕誕生

× 誘 ユウ 誘 さそふ いざなふ 〔用例〕誘惑

△ 語 ゴ七一八六 語 かたる 七一七六 〔用例〕語句 物語

△ 誤 ゴ 誤 あやまる 七一八四 〔用例〕誤解

△ 說 セツ八一四二 說 とく 〔用例〕說明

× 豪 ゴウ 豪 〔用例〕豪傑 富豪

× 賦 フ 賦 〔用例〕賦課 月賦

× 賓 ヒン 賓 まろうど 〔用例〕來賓

× 踊 ヨウ 踊 をどる 〔用例〕舞踊

× 輕 ケイ 輕 かるし 七一一四 かろし 六一六六 かろんず 〔用例〕輕薄 輕率

× 遙 ヨウ 遙 はるか 八一五六 〔用例〕遙拜

× 遞 テイ 遞 〔用例〕遞信 遞送

× 遠 エン八一五 オン ヲ五一八九 遠 とほし 三一八九 をち 〔用例〕遠方 遠見

× 遺 ケン 遺 つかふ つかはす やる 〔用例〕派遣

× 酷 コク 酷 きびし むごし 〔用例〕酷使 酷評

× 酸 サン 酸 すす 〔用例〕酸素 辛酸

× 銀 ギン三一六七 銀 しろがね

× 銃 ジュウ 銃 つゝ

× 銅 ドウ六一一五 銅 あかがね

× 銘 メイ 銘 〔用例〕銘打 感銘

△ 閣 カク五一一〇九 閣 〔用例〕閣下 内閣

▲ 無 ユウ 無 くまで 六一二四

△ 際 サイ六一五一 際 きは 七一九一 〔用例〕際限 交際

× 障 ショウ 障 さはる 障子 〔用例〕支障

△ 需 ジュ八一七五 需 もとむ 〔用例〕需要 必需

△ 領 リョウ八一一四 領 〔用例〕領地 要領

△ 飾 ショク 飾 かざる 七一六五 〔用例〕装飾

× 駁 バク 駁 〔用例〕反駁

× 駄 ダ 駄 〔用例〕駄賃

△ 魂 コン 魂 たましひ 七一二四 〔用例〕三つ子の魂百まで

× 鳴 メイ 鳴 なる 三一一〇 ならす 三一一〇 なく 四一一〇 〔用例〕鳴動 悲鳴

× 鼻 ビ 鼻 はな 五一五八

△ 魯 ロ 魯 くまで 六一二四

▲ 漕 ソウ 漕 こぐ 七一六〇

▲ 飼 シ 飼 かふ 七一九一

▲ 箇 カ八一九一 コ七一二一 箇

▲ 厭 エン 厭 いとふ 八一三五

▲ 緋 ヒ五一一八 緋

▲ 謳 ショウ八一一五 謳

十五畫

△ 價 カ八一九六 價 あたひ 五一七四 〔用例〕價格 安價

△ 儀 ギ五一六 儀 〔用例〕儀式

△ 億 オク十三九 億

△ 儉 ケン八一二五 儉 〔用例〕儉約 倹（ひとり者）に入るは基（もと）く、奢（おごり）に入るは難し

× 劇 ゲキ 劇 はげし 〔用例〕劇薬 演劇

劍 劍十六畫ニ同ジ

× 噴 フン 噴出 噴霧器

× 墨 ボク 墨すみ 墨書

× 墮 ダ 墮おつ 墮落

△ 審 シン八・四八 審つまびらか 審査 審判

× 寫 シャ五・一〇七 寫うつす 寫生

× 寬 カン 寬ひろし 寬大

× 廚 ソウ七・三三 廚 大廚

△ 履 リ七・一〇二 履はく 履行 履歴 履物

△ 幣 ヘイ七・四七 幣ぬさ 貨幣

△ 廢 ハイ八・六七 廢すたる 廢止 廢物

× 廣 コウ七・四七 廣ひろし 廣告

△ 弊 ヘイ八・一三三 弊 弊害

△ 彈 ダン八・二八 彈ひく 彈丸 指彈

△ 影 エイ六・一〇七 影かげ 影響 面影

△ 徵 チョウ八・一〇〇 徵しるし 徵兵

△ 德 トク八・一二 德 道德

× 徹 テツ 徹とおる 徹底

× 慕 ボ 慕したふ 敬慕

× 慮 リョ 慮おもんばかる 慮外 慮るべからず

× 慰 イ 慰なぐさむ 慰安 慰勞

× 慶 ケイ 慶よろこび 慶賀 大慶

× 慾 ヨク 慾 慾望

× 憂 ユウ 憂うれう 憂慮

× 憚 タン 憚はばかる 憚

△ 憐 レン 憐あはれむ 可憐

× 憤 フン 憤いきどほる 憤慨

× 摩 マ 摩する こする

× 撫 ブ 撫なで 愛撫

△ 敵 テキ五・六四 敵かたき 敵視

△ 敷 フ 敷しく 敷設

△ 數 スウ七・七一 スス七・八五 數かず 數學

△ 整 セイ七・二八 整ととのふ 整理

暮 ボ 暮くる 暮れ

× 樓 ロウ 樓・ろ 樓閣

× 樂 ラク七・八五 ガク八・一三 樂たのしむ 樂觀 樂天 樂器

× 概 ガイ 概おほむね 概要 概略

× 暴 ボウ八・一〇一 バク 暴あらし 暴風 暴利

× 潮 チョウ 潮うしほ 潮流

△ 潔 ケツ七・七 潔きよし 潔白

× 潛 セン 潛くぐる 潛水 潛伏

× 歐 オウ 歐 歐洲

△ 欺（嘆） タン八・四四 欺なげく 欺息

△ 熟 ジュク八・六九 熟 未熟

× 熱 ネツ八・四 熱あつし 熱心

× 監 カン 監 監督

× 盤 バン 盤 基盤

△ 確 カク八・二四 確たしか 確實

△ 樣 ヨウ四・三一 樣さま 樣子

△ 稻 トウ 稻いね 早稻

△ 稿 コウ八・四八 稿 原稿

△ 穀 コク二・一〇一 穀 穀物

× 窮 キュウ 窮きはまる 窮屈

△ 節 セツ八・一五 節ふし 節約 節度

△ 範 ハン七・四三 範 模範

× 緊 キン 緊 緊急

× 緒 ショ 緒いとぐち 緒論

× 線 セン五・五三 線 線路

× 締 テイ 締しむ 締結

× 樞 スウ 樞 中樞

△ 標 ヒョウ七・一三 標しるし 標準

△ 模 モ七・一三 模 模範

△緣 エン 縁 よる ふち 八一二二

△編 ヘン 八一六六 編 あむ 〔用例〕編制

×緩 カン 緩 ゆるし ゆるむ 緩急

×緯 イ 緯 よこいと 〔用例〕緯度 七一七九

練 レン 八一三五 練 ねる 〔用例〕練習

×罵 バ 罵 のしる 〔用例〕罵詈

×罷 ヒ 罷 やむ まかる 〔用例〕罷業 罷免

△膚 フ 八一〇一 膚 はだへ 〔用例〕皮膚

×膜 マク 膜 〔用例〕骨膜

△膝 シツ 膝 ひざ 八一二二 〔用例〕膝下 膝頭 膝行

×蔓 マン 蔓 つる はびこる かずら 〔用例〕蔓延

×衝 ショウ 衝 つく 〔用例〕衝突 折衝

×褒 ホウ 褒 ほめる 〔用例〕褒美

△課 カ 八一九一 課 〔用例〕課題

調 チョウ 七一一〇九 調 しらべる ととのふ 〔用例〕調査 調製

▲誰 スイ 誰 だれ 五一四二

談 ダン 八一四七 談 はなし 〔用例〕談話

×請 セイ ショウ 請 こふ うく 〔用例〕請願

△論 ロン 六一八四 論 あげつらふ 〔用例〕論議

△賜 シ 賜 たまふ たまはる たまもの 八一七三 八一四〇 〔用例〕賜物 下賜

賞 ショウ 八一六四 賞 めでる 〔用例〕賞賜

△賣 バイ 八一二六 売 うる 〔用例〕賣買

△賤 セン 八一一三 賤 いやしむ いやしい 〔用例〕貧賤

質 シツ 六一八一 シチ 六一二四 質 たづす 〔用例〕質問

×賛 サン 賛 たすく 〔用例〕賛成

△趣 シュ 六一七八 趣 おもむき 八一六三 〔用例〕趣味

×輩 ハイ 輩 ともがら 〔用例〕先輩

△輪 リン 輪 わ 七一二二 〔用例〕車輪

×適 テキ 七一六七 適 〔用例〕適材適所

×遭 ソウ 遭 あふ 〔用例〕遭遇

×醉 スイ 醉 よふ 〔用例〕心醉

×鋭 エイ 鋭 〔用例〕鋭利

×鋒 ホウ 鋒 はち 〔用例〕鋒鋒

×閲 エツ 閲 けみする 〔用例〕検閲

△隣 リン 隣 となり 六一五〇 〔用例〕隣人 隣国

△震 シン 六一一〇一 震 ふる ふるふ 六一一〇六 〔用例〕震動

養 ヨウ 六一四一 養 やしなふ 五一七二 〔用例〕養成 二に養生

△餅 ヘイ 餅 もち 五一七一 〔用例〕餅は餅屋

△駐 チュウ 駐 とどまる とどむる 〔用例〕駐在

×髪 ハツ 髪 かみ 〔用例〕白髪

△齒 シ 齒 は 四一三二 〔用例〕義齒 年齒

▲【劑】 センチメートル 五一二二

▲嬉 キ 嬉 うれしむ 七一二七

▲錐 スイ 錐 きり 五一四七

▲澁 ジュウ 澁 しぶ 三一二九

▲駒 ク 駒 こま 八一三

▲鹿 キ 八一七三 鹿 しか

▲箸 チョ 箸 はし 四一四九

▲撲 ボク 八一九七 撲 うつ

▲蔬 ソ 七一八三 蔬

▲蝶 チョウ 三一四二 蝶

▲幡 マン 六一六七 幡 はた

十六畫

△劑 ザイ 七一九二 劑 〔用例〕薬剤 下剤

△劍（剣） ケン 劍 つるぎ 五一五七

△勁 クン 五一六七 勁 いさを 〔用例〕勁功

△勵 レイ 八一六七 勵 はげむ 八一四七 はげます 〔用例〕勉勵

器 キ 六一九六 器 うつは 〔用例〕器具

△壁 ヘキ 八一六二 壁 かべ 六一一〇四 〔用例〕障壁 二の面壁 九年壁

△壇 ダン 八一一六 壇 〔用例〕講壇場

△奮 フン 八一六六 奮 ふるふ 〔用例〕奮闘

學 ガク 三一二二 学 まなぶ 八一二 〔用例〕學問 学に近道なし

×導 ドウ 導 みちびく 〔用例〕指導

×憲 ケン 憲 のり 〔用例〕憲法

△緣 エン 縁 よる ふち八一二二

△編 ヘン八一六六 編 あむ 編制

△緩 カン 緩 ゆるし ゆるむ 緩急

△緯 イ 緯 いと×七一七九 緯度

△練 レン八一三五 練 ねる 練習

△罵 バ 罵 ののしる 罵倒

△罷 ヒ 罷 やむ まかる 罷業

△膚 フ八一一〇一 膚 はだへ 皮膚

△膜 マク 膜 骨膜

△膝 シツ 膝 ひざ八一二二 膝下 膝行とも讀む

△蔓 マン 蔓 つる はびこる かずら 蔓延

△衝 ショウ 衝 つく×八一六八 衝突 衝撃

△褒 ホウ 褒 ほむ 褒賞

△課 カ八一九一 課 課題

△調 チョウ七一〇九 調 しらべる 調査 調製

△誰 スイ 誰 たれ 誰

△談 ダン八一四七 談 はなし 談話

△請 セイ ショウ 請 こう 請願

△論 ロン六一八四 論 あげつらう 論説

△賜 シ 賜 たまふ たまはる 賜物

△賞 ショウ八一六四 賞 ほめる 賞揚

△賣 バイ八一二六 賣 うる 賣買

△賤 セン八一一三 賤 いやしい いやしむ 賤業

△質 シツ六一八一 質 たずす シチ六一二四 質問

△賛 サン 賛 たすく たすける 賛成

△趣 シュ六一七八 趣 おもむき おもむく 趣味

△輩 ハイ 輩 ともがら 輩出

△輪 リン 輪 わ七一二二 車輪

△適 テキ七一六七 適 かなう 適材適所

△遭 ソウ 遭 あう 遭遇

△醉 スイ 醉 よう 心醉

△銳 エイ 鋭 するどい 鋭利

△鋒 ホウ 鋒 ほこ きっさき 鋒鋒

△閲 エツ 閲 けみする 閲覧

△隣 リン 隣 となり 隣人

△震 シン六一〇一 震 ふる ふるう 震動

△養 ヨウ六一四一 養 やしなう 養成

△餅 ヘイ 餅 もち 餅は餅

△駐 チュウ 駐 とどまる とどむる 駐在

△髮 ハツ 髮 かみ 髮

△齒 シ 齒 は 年齒

△【魏】 センチメートル 公五一二二

▲嬉 キ 嬉 うれしい

▲錐 スイ 錐 きり

▲鎹 ジュウ 鎹 しぶ

▲駒 ク 駒 こま

▲鷹 キ八一七三 鷹 たか

▲箸 チョ 箸 はし

▲撲 ボク八一九七 撲 うつ

▲蔬 ソ七一八三 蔬

▲蝶 チョウ三一四二 蝶

▲轉 マン六一六七 轉 はた

十六畫

△劑 ザイ七一九二 劑 下劑

△劍（劍） ケン 劍 つるぎ

△勁 クン五一六七 勁 いきを 勁功

△壁 ヘキ八一六二 壁 かべ 障壁

△壇 ダン八一一六 壇 壇場

△器 キ六一九六 器 うつわ 器具

△勵 レイ八一六七 勵 はげむ はげます 勉勵

△奮 フン八一六六 奮 ふる 奮發

△學 ガク三一二二 學 まなぶ 學問

△導 ドウ 導 みちびく 指導

△憲 ケン 憲 のり 憲法

憶 オク 憶 〔用例〕追憶

憾 カン 憾 〔用例〕遺憾

戰 セン 六一九六 戦 〔用例〕戦況

擇 タク 擇 〔用例〕選擇

操 ソウ 操 〔用例〕操縱

擔 タン 擔 〔用例〕負擔

據 キョ 八一六〇 据 〔用例〕根據

曆 レキ リヤク 暦 こよみ

曇 ドン 曇 くもり 七一三五

樹 ジュ 八一三六 樹 〔用例〕樹立

橋 キョウ 七一二〇 橋 〔用例〕石橋

機 キ 五一八七 機 〔用例〕機會

橫 オウ 横 よこ 五一四五 よこたわる 五一四七 〔用例〕橫隊

歷 レキ 七一七 歴 〔用例〕歴史

澤 タク 七一二〇 沢 〔用例〕澤山

濃 ノウ 六一四二 濃 こい 〔用例〕濃厚 こまやか 〔用例〕濃厚 〔用例〕水よりも濃

激 ゲキ 八一七三 激 〔用例〕激烈

濁 ダク 濁 〔用例〕濁す

燃 ネン 八一九 燃 〔用例〕燃料

燈 トウ 五一八六 燈 〔用例〕燈火

燒 ショウ 焼 〔用例〕燒失

獨 ドク 六一五五 独 〔用例〕獨立

磨 マ 磨 〔用例〕練磨

禦 ギョ 禦 〔用例〕防禦

積 セキ 八一五 積 〔用例〕積善の家には餘慶

築 チク 築 〔用例〕建築

縛 バク 縛 〔用例〕束縛

糖 トウ 糖 〔用例〕砂糖

篤 トク 八一九一 篤 〔用例〕危篤

縣 ケン 七一七七 県 あがた

興 コウ 七一五 興 おこす おこる 七一六〇 〔用例〕復興

融 ユウ 融 とかす 〔用例〕融通

衡 コウ 衡 〔用例〕均衡

衛 エイ 七一二七 衛 エ 衛 まもる 〔用例〕衛生

親 シン 七一二四 親 したし 五一七四 おや 五一五二 みづから

諮 シ 諮 はかる 〔用例〕諮問

諭 ユ 諭 さとす 〔用例〕教諭

諸 ショ 五一四四 諸 もろ〳〵 これ

諾 ダク 諾 うべなふ 〔用例〕承諾

謀 ボウ 謀 はかる 〔用例〕謀計 はかりごと

謁 エツ 謁 〔用例〕拜謁

豫 ヨ 七一六九 豫 あらかじめ 八一六六 かねて 〔用例〕豫定

賢 ケン 賢 かしこし 〔用例〕賢明

賴 ライ 四一七九 頼 たよる たのむ 九二 〔用例〕依賴 〔用例〕賴母子

輸 ユ 八一五二 輸 〔用例〕運輸

輯 シュウ 輯 あつむ 〔用例〕編輯

辨 ベン 八一三九 辨 わきまへる 〔用例〕辨償

運 チ 運 〔用例〕運搬

遼 ジュン 遼 〔用例〕遼遠

遷 セン 遷 うつる うつす 〔用例〕變遷

選 セン 選 〔用例〕選擇

遺 イ 遺 のこる のこす 〔用例〕遺産

鋼 コウ 鋼 〔用例〕鋼線

錯 サク 錯 まじる 〔用例〕錯雜

錄 ロク 五一二五 録 〔用例〕記錄

錢 セン 錢 ぜに

隨 ズイ 隨 したがふ したがつて 〔用例〕隨行

險 ケン 七一六一 険 〔用例〕危險

靜 セイ 八一三五 静 ジョウ 静 しづか 七一〇八 しづむ 〔用例〕靜穩

頭 トウ 七一六二 頭 ヅ 九一五五 かしら 四一五二 あたま 九二 〔用例〕頭

頻 ヒン 頻 しきり 〔用例〕頻繁

餓 ガ 餓 うゑ 〔用例〕餓死

× 餐 サン 餐 〔用例〕晩餐・食餐

△ 餘 ヨ 六—二九 餘 〔用例〕あまる 六—三二 あます 餘裕・餘力

× 默 モク 默 〔用例〕だまる 沈默・默殺

△ 龍 リョウ リユウ 三—二七 龍 〔用例〕たつ 「龍頭蛇尾」・龍宮

△ 龜 キ 龜 〔用例〕かめ 七—五四 「龜鑑」の用法より「龜の功」

▲ 橘 キツ 七—八三 橘 たちばな

▲ 蕉 ショウ 六—九〇 蕉

▲ 蔗 シャ 六—八九 蔗 かぶら

▲ 隸 レイ 八—二七 隸

十七畫

△ 償 ショウ 八—三九 償 〔用例〕つぐなう 償却・償金

△ 優 ユウ 八—三六 優 〔用例〕すぐる 優美・優良・優勝・優位・優秀・優遇・優劣・優先・優等・優越・優・優・優

（十七畫）鍵・（十八畫）瓶・旗・旗・旗・嶺・嶺・野・鍋・鍋・鍋

（十七畫）鍵・（十八畫）鞭・鎖・鎌・鍋・鍵・鍛・鍾・鍛・鍛・鍛

（十九畫）澆・餘・餘・餘

（二十二畫）臟・襲・讀・鑄・鑑・響・髓・鑛・顯・驗・驚・驛・體・髓・鬱・癒（二十三畫）變・鑛・靈・灣・螢・觀・（二十九畫）鬱・

△臟 ゾウ八一四二 腸

△襲 シュウ 襲 おそふ八一三三 つぐ 〔用例〕世襲 襲撃

讀 ドク トク八一二三 読 よむ四一二二

×鑄 チュウ 鋳 〔用例〕鋳造

×鑑 カン 鑑 かんがみる 〔用例〕鑑賞 かゞみ

△響 キョウ 響 ひゞく 〔用例〕音響

▲髓 ロウ ろ八一三三 かど こもる

▲鑛 ロウ ろ八一一〇

▲髓 マン うなぎ ま八一八四

二十三畫

△戀 レン 恋 こひ七一二六 〔用例〕恋愛

△變 ヘン六一七七 変 かはる六一八〇 〔用例〕変化

×讓 ジョウ 譲 ゆづる 〔用例〕譲歩

△靈 レイ八一七三 霊 たま 〔用例〕人は万物の霊長

▲鑛 カン八一八六

△顯 ケン八一八三 顕 あらはす あきらか 〔用例〕顕著

△驗 ケン七一六六 験 しるし 〔用例〕実験

△驚 キョウ ケイ 驚 おどろく 〔用例〕驚嘆

△驛 エキ二一二九 駅 うまや

×髓 ズイ 髄 〔用例〕骨髄

×體 タイ六一二五 体 からだ 〔用例〕身体

二十四畫

×鬱 ショク 触 〔用例〕触覚

△鬱 サン 鬱 あやぶ 〔用例〕鬱蒼

二十五畫

△灣 ワン八一六一 湾 〔用例〕湾入

△廳 チョウ七一二八 庁 〔用例〕官庁

△螢 バン八一五〇 蛍 〔用例〕螢雪

△觀 カン六一九九 観 みる 〔用例〕観覧 観

二十九畫

▲鬱（鬱ウツ）ふ八一七〇

漢字索引 終

昭和十二年七月十六日印刷
昭和十二年七月二十日發行

著作權所有

著作兼發行者 ブラジル日本人教育普及會

印刷者 和田助一

印刷所 單式印刷株式會社
東京市淀橋区諏訪町一丁目二十二番地

Made in Japan

昭和十二年七月十六日印刷
昭和十二年七月二十日發行

著作權所有　著作權　發行者

ブラジル日本人教育普及會

東京市芝區芝浦一丁目二十三番地
單式印刷株式會社

印刷者　和田助一

東京市芝區芝浦一丁目二十三番地

印刷所　單式印刷株式會社